参考資料4－1

平成１９年度

学力向上拠点形成事業 ～確かな学力育成のための実践研究事業～

実践研究報告 （第２年次）

神奈川県立田奈高等学校

～　学習意欲の向上と授業改善の試み　～

校　長　　中田正敏

これまで本校では、1年次に6学級規模のところを8学級展開にした３０人規模の学習、１，２年次の数学と英語を２分割による小集団学習、さらに、情報や家庭科のＴＴなど、生徒一人ひとりにきめ細かい指導を実践してきた。その結果、生徒の学習への取り組みは一定程度改善され、進級・卒業する生徒の率は大幅に上昇しつつある。しかし、途中で授業についていけないなどの事情から意欲を失いがちな生徒もいる。また、ここ数年の進路状況を見ると、卒業時点で約３割の生徒が進路未定という状況は相変わらず続いている。

そこで、平成１８年度から文部科学省の指定を受けて始まった「学力向上拠点形成事業」（確かな学力育成のための実践研究事業）では、『「キャリア教育の推進」を通して、生徒の「学習意欲の高揚」を図り、授業改善によって「確かな基礎学力」の定着に結びつけること』を研究のねらいとした。そのために、先ず、「キャリア教育」についての理解を深めるための研修会の実施、第二に、地域の企業と連携した就業体験の実施、第三に、意欲に応える授業改善と教育課程の開発を行っていくことにした。

初年度は、新規事業として「職場見学体験」を１年次の夏休みに実施し、それを通して「職業理解」と「基礎学力の重要性への気づき」をはかり、職業理解や自己有用感の醸成など一定の成果をおさめた。しかし、それらが、学習意欲の向上に結びつくのかという点では課題を残した。そこで、１９年度には、「地域連携によるキャリア教育を充実させ、それを学習意欲の向上にいかにつなげるか」「授業改善によりいかに基礎学力の定着を図るか」をテーマとして、研究を深める試みを行った。

１９年度の主な成果として、

○「職場見学体験」においては、事前指導として、生徒を小グループに分けて、地元企業の経営者の方から話しを直接に聞き、質問する「職業インタビュー」を導入するなどした結果、コミュニケーションの中で生徒は多くの収穫を得ることができたこと

○事後のふりかえりの機会として、「職場見学体験」の協力企業の方から具体的に感じたことを述べていただいた中で、事業所の立場からもよい体験ができたことを挙げていただくことができるなどの収穫を得ることができたこと

○キャリア教育については、中央大学の大学院生を生徒の小グループでの話し合いのファシリテーター役で入ってもらう設定で、「中央大学との連携のよるキャリア教育」の実践により生徒のキャリア意識の向上を図ることができたこと

○総合Ｂで新規事業「校外体験学習」「地域で福祉を体験する」などキャリア教育の充実を図る講座が実践されたこと

○「授業改革アンケート」「授業公開週間」「協同的な学びの実践（グループ学習）」「授業研究会参加」、「基礎学力テスト」、「生徒による授業評価」などにより授業改善を進めたことなどが挙げられる。

以上のように、体験学習の事前事後の段取りを丁寧に実施し、生徒の小グループでの学びに社会資源の活用をするなどの工夫を加える一方で、授業改善の試みを豊富に展開することにより、積極的な意識が学習につながる可能性がみえてきた。今年度は、県教育委員会より指定を受けた、「全日制普通科における新たな学校のしくみづくり」の推進と並行して、キャリア教育、授業改善、教育課程の開発に特化し実践的に研究していく。

目　　次

Ⅰ　平成１９年度の中間報告について
1　推進校の概要 …… 3
2　研究のねらい …… 3
3　研究の概要 …… 4
4　成果と課題 …… 4

Ⅱ　平成２０年度の実施計画について …… 6

Ⅲ　実践研究報告Ⅰ　～キャリア教育への取り組み～
1　体験的キャリア教育の実践について …… 7
（1）総合Ａにおける「職場見学体験」の取り組み …… 7
（2）総合Ｂにおける「校外体験学習」の導入 …… 13
（3）総合Ｂにおける「地域で福祉を体験する」の実践 …… 17
2　中央大学とのキャリア教育連携授業について …… 19

Ⅳ　実践研究報告Ⅱ　～授業改革への取り組み～
3　授業改革アンケートの実施とその活用 …… 23
4　授業公開週間の実施と総括 …… 27
5　授業研究（協同的な学びを目指して） …… 31
6　「基礎学力テスト」について …… 35
7　「生徒による授業評価アンケート」のまとめ …… 39
・国語科 …… 40
・地歴・公民科 …… 41
・数学科 …… 42
・理科 …… 43
・保健体育科 …… 44
・芸術科 …… 45
・外国語（英語）科 …… 46
・家庭科 …… 47
・情報科 …… 48
・総合的な学習の時間 …… 49

学力向上拠点形成事業（高等学校）（確かな学力育成のための実践研究事業）

平成１９年度中間報告書・平成２０年度実施計画書

Ⅰ 平成１９年度の中間報告について

１ 推進校の概要（平成２０年３月現在）

①学校名	神奈川県立田奈高等学校

②学級数，生徒数

課程	学科	第１学年		第２学年		第３学年		第４学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	普通科	226	8(6)	209	6	180	6			615	20(18)

③教員数

校長	教頭	教諭	養護教諭	非常勤講師	実習助手	ALT (PFT)	事務職員	司書	計
1	2	47	2	6	1	1（2）	6	1	67（69）

④卒業後の進路

進学			就職	その他
四年制大学	短期大学	専門学校		
29	9	35	57	50

⑤ホームページアドレス	http://www.tana-h.pen-kanagawa.ed.jp/

２ 研究のねらい

本研究は、「『キャリア教育の推進』を通して、生徒の『学習意欲を高め』、いかにして『確かな基礎学力』を身につけさせるか」を究明することにある。その過程において、「何が生徒の学習意欲，勤労意欲を乏しくさせているか」も解明していく。また、教職員のキャリア教育への共通認識を構築して、生徒のキャリアへの意識変化に的確に対応するシステムづくりも検討する。最終的には、知識や技能ばかりでなくコミュニケーション能力など、社会との係わりの中で逞しく生きる力としての「確かな学力」をいかにして身につけさせるかを解明したい。

3　研究の概要

ここ数年の進路決定状況を見ると、卒業時で約３分の１が未定という状況が続いている。大学への門が広がり、就職状況が好転した今年度も同様であった。これは主に「アルバイトでなんとか･･･」といったキャリアへの認識の甘さやハードルを越えるだけの力の不足が原因である。こうした認識の甘さ、学習意欲の乏しさ、経済的課題など本校の生徒が抱える諸問題を克服するために、「キャリア教育」を核に据えて、「働くこと」への意欲・関心を高めて学習意欲の向上を図り、そこから生きる力としての「確かな学力の育成」に繋げる。そのために、

先ず、教職員が「キャリア教育」は勤労観，職業観の育成で、むろん出口指導といった狭い意味ではなく、生き方の指導そのものであるとの認識をもつべく研修を行う。

第二に、地域の企業・経済団体と連携して「職場見学体験」「インターンシップ」を実施し、「働くこと」の意味，意義、企業の持つ社会性などを理解させる。

第三に、生徒の学習意欲を高め、学力をつけることが自己実現につながることを気づかせる「授業改善」並びに、生徒の将来設計に応える「教育課程の開発」をする。

○研究組織

初年度「キャリア教育推進会議」を立ち上げて事業の推進を図った。19 年度からは研究開発グループに位置付けて研究を進めた。

4　成果と課題

《取り組みの目的》

1．本校生徒に最も不足している「自己肯定力（自尊感情)」を高める。
2．学習に対する苦手意識を払拭し、意欲的に学習に取り組ませる。
3．夢をあきらめないために学力の底上げを図る。
4．社会に出て困らない基本的な知識・常識を身につけさせる。
5．自ら進んで問題解決にあたる力を身につけさせる。

《今年度の取り組み内容》

1　校外体験学習等

・１年次総合で「職場見学体験」を実施。228 名が参加。
・２年次総合で「校外体験学習」(事業所インターンシップと専門学校等）に 28 名が参加、「地域で福祉を体験する」（老人ホーム実習）に 10 名が参加。
・１年次総合で、自己理解・他者理解プログラムを実施。
・１年総合で「マナー講習」「職業インタビュー」「職業ガイダンス」に外部講師を招いて実施し、様々な大人と出会い、交流する機会を作った。
・２年次に進路適正検査を実施し、自己理解と進路選択を結びつける指導を行った。

2　指導法の工夫

・１，２年次の数学・英語を２分割の小集団で実施。きめ細かい指導を行った。

・１年次数学Ｉの授業の一部で、グループによる協同的な学習を取り入れた。

・家庭科と芸術の一部でＴＴを実施し、生徒にきめ細かく対応した。

3　補習・講習等

・成績不振者を対象として、単位修得を目指す補習を行った。

・日常学習を補うべく夏季講習を９講座展開し、延べ44名受講。目標には至らなかったが、学習意欲の向上と講習を実施しやすい環境作りができた。

4　社会人としての基礎的なマナーについて

・1年生全員及び2年生の校外体験履修者28名にマナー研修を実施。

5　学力向上について

・授業改革についてのアンケートを行い、現在行っている指導上の工夫や今後の課題を教員が意識すると共に、結果を共有する機会を作った。

・「生徒による授業評価」結果を各教科会で意識し、分析する機会を作った。

・研究授業及び授業研究会を行い、希望者が参加する機会を作った。

・公開授業週間を設定した。見学者には、授業を見学していいと思ったところを報告してもらう形を作り、その結果を全体で共有した。

・学校外の授業研究会の情報を案内し、希望者が参加できるようにした。

6　今年度の校内の推進体制及びその評価

・新たな校内組織「研究開発」グループを立ち上げ、その中に本事業を統括する部署を設置したため、キャリア教育の充実という柱に加えて、学力向上のために授業を検討していく新たな動きを作り出すことができた。

・関係する他のグループとの連携を十分には行うことができなかった。

Ⅱ．平成２０年度の実施計画について

ア　３年目の課題

１．キャリア教育から学習に対する意識を高める
２．指導法を工夫する
３．補習・講習等を行う
４．授業研究を行う
５．教育課程を検討する。

イ　取り組みの内容

１　キャリア教育から学習に対する意識を高める
・１年次総合で「職場見学体験」を実施する。
・２年次総合でインターンシップを行う。

２　指導法を工夫する
・１，２年次の数学・英語を２分割の小集団で実施する。
・小集団ならではの指導法を検討する。

３　補習・講習等を行う
・普段の授業の中では理解が難しい生徒などを対象として、補習を行う。
・普段の授業の中では、物足りない生徒及び、進学や就職を希望する生徒を対象に講習を行う。

４　授業研究を行う
・生徒による授業評価の結果を分析し、授業の取り組みに活かしていく。
・公開授業週間を設定し、互いに授業を見合い、学ぶ機会を作る。
・研究授業及び授業研究会を行う。

５　教育課程を検討する。
・学習意欲を高める教育課程について検討する。

ウ　その他

・「研究開発Ｇ」が引き続き当指定事業を統括するが、総合Ａの「職場見学体験」の取りまとめは進路支援Ｇに移管し、「生活編」は生徒支援Ｇと連携して、行うこととする。
・これまで本校で実践してきたものを最大限有効利用し、かつ研究を深められるよう、各教科に協力を依頼する。
・央大学古賀教授の「キャリア教育の効果測定」に関する研究に協力する中で、本校生のキャリアに関する意識を把握し、効果的な指導法を研究する。
・研究の取り組みと成果を「新しいしくみづくり」と有機的に連動させる。

Ⅲ　実践研究報告Ⅰ　～キャリア教育への取組み～

１　体験的キャリア教育の実践について

（１）総合Ａにおける「職場見学体験」の取組み

１年の総合的な学習の時間（総合Ａ）は２単位の必修科目で、「進路研究編」と「生活研究編」の２講座から構成されている。この「進路研究編」の中で昨年度から「職場見学体験」をメインの行事として導入した。今年度は事前指導、事後指導を含め、系統立てた「職場見学体験」となるよう発展拡充した。

１　趣旨

総合Ａの「進路研究編」の一環として、さまざまな職業の現場や仕事の実際について学び、自らの適性や進路について真剣に考える契機とする。また、責任ある社会人としての最低限のマナーを身につける機会としても活用する。

２　対象生徒

１学年全員２３６名

３　実施時期

７月２０日～３１日　８月２１日～２５日

４　見学体験先

緑法人会、横浜田園ロータリークラブを中心に募集した全５３事業所（表参照）

５　事前指導

１．テキスト「進路研究編」を用いた「自己分析」・「進路を考える」のためのグループ学習

２．生徒の希望調査

３．マナー講習

（株）プラン・ドゥ・シー派遣の講師４名によって、１クラス（３０名）単位で５０分のマナー講習を実施（緑法人会協力）

４．職業インタビュー

職場見学体験協力事業所派遣の１７人によって、１クラス（３０名）を６～８名のグループに分け、各グループに講師が１名入り、職業や社会人の実際についてインタビュー形式で行った。

５．職場見学体験の概要説明と確認

ワークシートを準備し、実施日時、留意点、場所、交通手段などを確認した。

６　事後指導

１．記録と感想

ワークシートに見学体験の記録と感想を記入させ、事業所担当者からコメントをもらう。

２．お礼状作成

お礼状を書き、事業所に送付

３．振り返りシート

楽しかったこと、役にたったことなど振り返りシートに記入し、各クラス廊下掲示して情報共有した。

７　地域との連携

１．職場見学体験事業所対象説明会

職場見学体験実施前に趣旨、内容、生徒像の説明をし、共通認識を深めた。

２．職場見学体験意見交換会

職場見学体験実施後、事業所内での生徒の様子と学校側から見た生徒の変化を情報交換し、生徒にとってよりよい職場見学体験の在り方を検討した。

8　協力事業所

1．職業インタビュー講師一覧

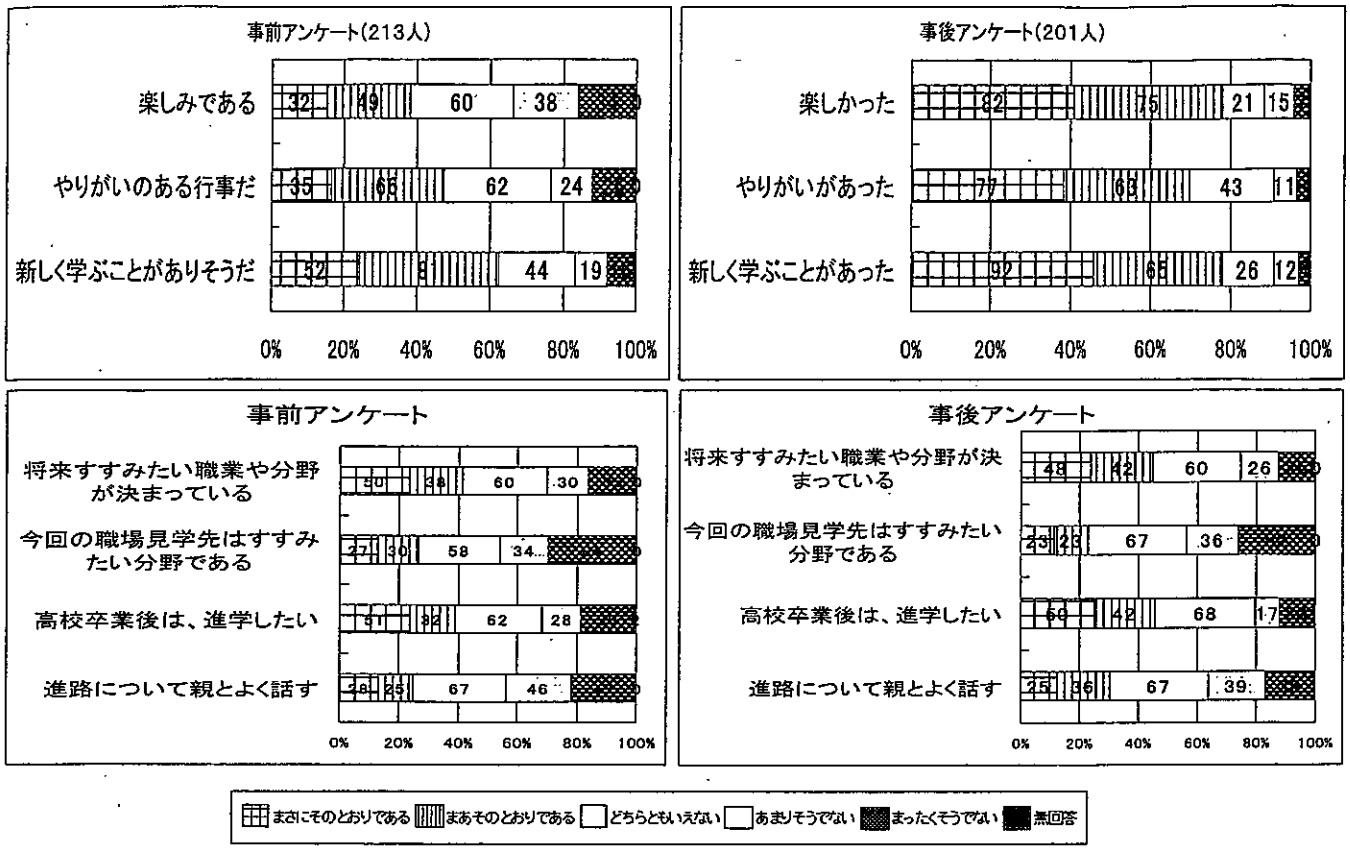
No.	業種	事業所名	役職
1	自動車整備	神奈川県自動車販売店協会	部長
2	製造・機械	金子工業（株）	営業
3	製造・機械	プラムファイブ半導体技術センター	総務部課長
4	製造・機械	エクスプレッソ	代表取締役
5	製造・機械	株式会社　ミカワ精機	取締役
6	消防	青葉消防署　鴨志田消防出張所	消防出張所長
7	消防	青葉消防署　鴨志田消防出張所	救助係長
8	福祉・介護	フローレンスケア	事務長
9	幼児教育・保育	みほ幼稚園	園長
10	証券業	日興コーディアル証券青葉台支店	総務課長
11	調理・飲食店	ケイゾーインターナショナル	代表取締役
12	調理・飲食店	米宗	代表取締役
13	販売	こくぼ	代表取締役
14	動物・畜産	青葉台犬猫病院	院長
15	郵便局	青葉台駅前郵便局	局長
16	理容美容	パウサ	店長
17	理容美容	カットバーバーゴン	店長

2．職場見学体験協力事業所一覧

No.	業種	事業所名	No.	業種	事業所名
1	コンピュータ・情報	（株）エクスプレッソ	28	動物・畜産	社会福祉法人こどもの国協会
2	区役所・郵便局	青葉区役所総合庁舎	29	販売	若松屋商事株式会社
3	区役所・郵便局	青葉台駅前郵便局	30	販売	(有)ナイトウ
4	事務等	（株）こくぼ	31	福祉・介護	介護付有料老人ホーム
5	事務等	（株）タウンニュース社	32	福祉・介護	介護付有料老人ホーム
6	事務等	（有）ジャパンファイナンシャルエージェント	33	幼児教育・保育	東幼稚園
7	自動車整備	（株）ブラザーモーターズ	34	幼児教育・保育	小桜愛児園
8	自動車整備	神奈川県自動車販売店協会	35	幼児教育・保育	学校法人岩澤学園みほ幼稚園
9	自動車整備	（有）車屋よこみぞ	36	幼児教育・保育	私立奈良幼稚園
10	消防	横浜市安全管理局　青葉消防署	37	幼児教育・保育	黒滝幼稚園
11	証券業	日興コーディアル証券株式会社　青葉台支店	38	理容美容	カーム
12	製造・機械	（株）計測技術研究所	39	理容美容	美容室パウサ
13	製造・機械	日本化工機材（株）相模原工場	40	理容美容	ミラートーク
14	製造・機械	（株）北芝建設	41	理容美容	ヘアメイク　カットインボブ
15	製造・機械	協和石油ルブリカンツ株式会社	42	理容美容	（株）トーコーライフ　フォー・ラム
16	製造・機械	株式会社エイチエヌエス	43	理容美容	カットバーバーゴン
17	製造・機械	株式会社プラムファイブ　半導体技術センター	44	理容美容	メンツクラブ
18	製造・機械	メガバックス	45	理容美容	ヒギンズハウス
19	製造・機械	一幸電子工業	46	理容美容	サム&デイブ
20	製造・機械	金子工業（株）	47	理容美容	バックスター
21	製造・機械	（株）ミカワ精機	48	理容美容	カームセラ
22	製造・機械（事務等）	オリエンタル産業　株式会社	49	理容美容	イメージア青葉台店
23	製造・食品	ダイニングキッチン喜心	50	理容美容	イメージア藤が丘店
24	調理・飲食関係	ケイゾーインターナショナル有限会社	51	理容美容	イメージアあざみ野店
25	調理・飲食関係	有限会社　米宗	52	理容美容	イメージア鷺沼店
26	動物・畜産	青葉台犬猫病院	53	理容美容	イメージアたまプラーザ店
27	動物・畜産	ペットショップレインボー横浜青葉店			

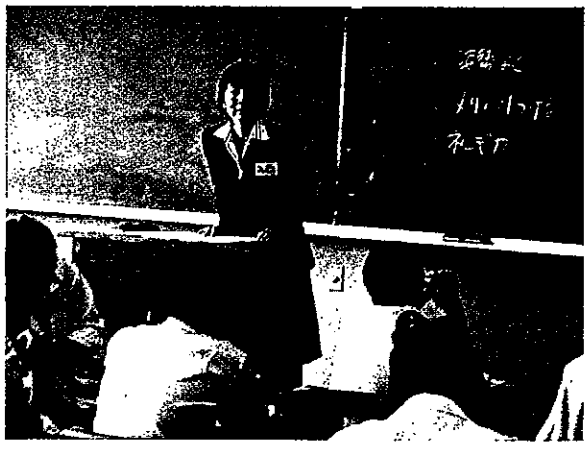
9　生徒の反応

1．職場見学体験の前後の意識変化



職場見学体験に参加する直前（７月）と直後（９月）の２度、同様の質問項目であるアンケートを実施した。その結果、職場見学体験に対する意識に大きな変化が見られた。職場見学体験に対する肯定的な反応が７月アンケートでは少なかったのに対して９月アンケートでは多くなっている（楽しみである；29.5%→78.1%、やりがいのある行事だ；36.1%→69.6%、新しく学ぶことがありそうだ；48.3%→78.1%）。生徒にとって初めて職場に入り、仕事の実際に触れるのが職場見学体験である。職場、仕事に対して肯定的な感想をもつ生徒が増加したことは今後のキャリア形成のきっかけ作りとして機能したのではないかと考える。

一方、「将来すすみたい職業や分野が決まっている」や「進路について親とよく話す」など具体的な進路に関する意識変化は事前事後指導を含め、系統的な教育を展開したが、高校一年生という時期もあり、職場見学体験の前後で大きな変化が見られない。しかし、三者面談や地域事業所との生徒個々の交流など「職場見学体験」を出発点とした進路支援の可能性が拡がったと考えている。



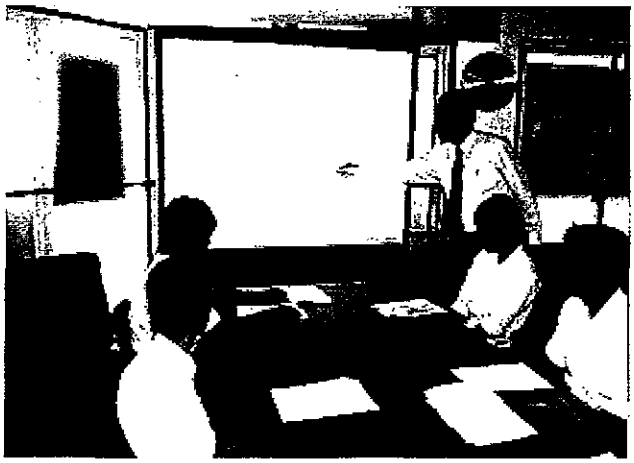
＜マナー講習の様子＞

＜職業インタビューの様子＞

2．生徒アンケート・ワークシートから

業種名	生徒感想
コンピュータ・情報関係	最初は職場に行くということでけっこう緊張したけど、担当者の人が思っていたより優しいし、職場はピリピリした雰囲気という印象しかなかったけど、途中で雑談したりして、今までの職場に対する印象が変わった。それに社員も５人くらいしかいなかったし、会社といっても、ごく普通のアパートの家だったので、こういった形でも会社として成り立って、成功することができるんだなってまた印象が変わった。しかし、担当者の人に聞くと仕事内容はやはりきついらしく徹夜する日があるらしいので会社はどんな形でも簡単じゃないし、苦労はあるのだと改めて感じた。今回、今まで持っていたイメージとは違う部分も知ったし、改めて働くことの大変さも知れた。また、仕事によって、色々内容は違うだろうけど仕事を体験することによって、何となく仕事に対するイメージをつかめたので、今後の進路に今回の体験を役立てたいと思った。
区役所	一日あざみ野フォーラムで体験して、改めて人と人とのコミュニケーションの大切さを学びました。難しかったり、失敗したりしたらどうしようを不安だったけれど、職員の方々がとても親切に教えてくださって、安心して体験に臨むことができたと思います。また、将来、仕事を選ぶうえで参考になる貴重な体験をすることができ、大変充実した一日を過ごすことができたと実感しました。任された仕事の責任の重さや仕事をやり遂げた時の達成感など、日常の生活の中で味わうことがないような気分をたくさん感じることができました。行く前までは面倒くさいと思っていたけど、またこんな体験ができたらしてみたいな…と思うような一日でした。
郵便局	まずネクタイやボタンの位置を一番上まで上げるように言われたので服装ひとつで相手の印象が変わることを学んだ。「いらっしゃいませ」、「ありがとうございました」はコンビニのバイトをしていたので難なくこなせたが、コンビニとは違い、ほとんどの人がおじぎや挨拶を返していたのには感動した。また、郵便局の人たちも一緒に声を出してくれるので楽しんで声を出せたのでよかった。体験内容はロビーに立って積極的な挨拶、時間がありそうな方に声をかけ「ただいたスイカ等のサービスうぃしておりますがいかがですか？」等、人とのコミュニケーションを主とする内容だった。快く返事をしてスイカを食べ、「おいしかった、ありがとう」と言い残してくれる人や話しかけてくれる人もいた。なかにはスイカの味に文句をつけてくる人もいたりしたが、これも仕事をやるうえで仕方のない道なのだと実感した。最後に郵便局の人たちにはとても親切にしていただいて、とてもやりやすかったので感謝します。
事務等	僕は今日「こくぼ」の職場見学体験をして、最初に自己紹介やあいさつの基本の「ハイ・オアシスモ」をやりました。一人一人やったのでとても緊張しました。その次に日常の言葉と丁寧な言葉の違いをよく学びました。それが終わったら自分の同行者が発表されて、僕と一緒に行く人が決まり、城所さんと一緒に行くことになったのでとても楽しみでした。まず、一緒に倉庫に行き、いろいろな雑誌や紙を運ぶことになり大変でした。僕はいろいろな会社に行き、色んな人に挨拶したり、アドバイスをもらったりしてとても嬉しかったです。城所さんと車内でいろんな話ができてよかったと思いました。めったに話すことができていないのでとてもいい体験になったと思いました。「こくぼ」の人はみんな優しく接してくれたのでとても嬉しかったです。１０社ぐらい車で移動したので途中で疲れました。車で移動した後、いろんな話をしたのでよかったと思いました。最後に「こくぼ」はいろんな商品を売っていることを初めて知りました。
自動車整備	ブラザーモーターズでは自動車について様々な仕事をしていた。特に車検の作業は様々な会社の自動車の車検をいっぺんに扱っていてほとんどのものを一日で終わらせていた。みんなとても暑い中、車の点検を念入りにしていた。その中で僕たちは様々な物を見学させてもらったり、タイヤの脱着や空気の調節までさせていただきとても貴重な体験学習になったと思う。ブラザーモーターズの人たちの話もどれも将来に役立つことばかりだったので今後はこの体験を将来に役立てていきたい。
消防署	初めて青葉消防署を訪ねた時は不安でいっぱいで、正直どうなることかと思いましたが、職員のみなさんがとてもやさしく、親切に防火着の装着方法、消防という組織の作り、消化ホースの使い方など色々なことを教えてくださって、僕の不安も少しずつ薄らいでいき、楽しく見学や体験を行うことができました。一番心に残った体験は応急処置、ＡＥＤによる救助処置の訓練です。連絡を受けてから救急車がくるまで約６分…その間にオロオロしているのではなく、自分にできることを見つけることが、その人の命を救うことだと知りました。今回の体験で僕は紙や字からは学べない物を学びました。そして、学んだことをこれからの日常生活はもちろん、将来に活かしていけたらいいと思いました。
製造・機械	金属を加工するのが難しいものは機械で、他は人の手によって行われている。金属を加工するのは難しそうなので、慣れなければ上手に加工するのは難しいと思ったが、楽しいと思わなければ慣れるのは難しいと近藤さんが言ってくれて、その通りだと思いました。それに、実際やってみて結構難しかったです。ミカワ精機で作られた物は人の目に見えない所につく部品で、その部品はとても大切なもので、その部品が少しでも悪い所があると動作不良を起こしてしまう。そして、その部品に仕上げるためにミカワ精機で働く人と同じように人の目に映らない部品を作っている人たちがいるからこそ機械は働き、人のためになるのだと学びました。そして、土台がしっかりしないと、いい物を作ることができないのだろうと思いました。今日半日お世話になりました
製造・機械（事務等）	朝礼から始まった職場見学体験は中学の時と同じ緊張感がとても感じられた。時間にルーズにならず、決まり事をしっかり守る、当然のことだと思うけど日常では絶対にないことなので良い経験でした。特に私はアルバイトもしていない人だし、将来的にも事務的な仕事には就かないと思うので、こんな機会がなくては経験できなかったので夏休み１日を使ってでも来られてよかったと思います。将来を見つめ直すにはとても良い機会になりました。事務の仕事はささいな間違いで信頼を失ってしまう、１つ１つのことを大切に取り扱わなければならない、大きな会社でも小さな会社でも１つ１つの大切さは変わらない、そんな風に思えた一日でした。

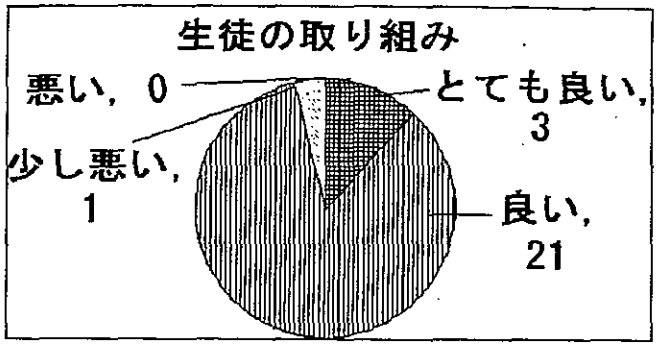
調理・飲食	みんなで一つの物（料理）を作っていました。日本料理は一人で全部作るのではなくてみんなで一つの料理をつくっていくことがわかりました。まるでジグソーパズルを組み立てていくみたいに作っていくということがわかりました。その日に明日の仕込みやらなんやら色々やっていました。その日の分だけじゃなく明日の準備をしているなんて大変なんだと思います。やることが分担されているためみんな起きてくる時間がまちまちだと知りました。だから遅く起きられる人は楽なんですかね。最後にはすごいご馳走がでてきました。それはなんと刺身、天ぷら、みそ汁に漬け物という豪華、４品でした。特に刺身の脂の乗り具合いときたら最高でした。また、こんな機会があったら行きたいです。本当に楽しかったし勉強になりました。ありがとう。米宗
動物・畜産	最初、道のりが分からなくて焦りや不安もたくさんあったけど先生たちの優しい対応などで、とても安心し楽しい時間になりました。私たちのために、わざわざ犬をトリミングしてくださいました。また、本当にためになる話などもしてくださいました。院長さんの話をはじめ、息子さんの話も聞きましたが動物が好きという感情だけでは難しいそうです。そんな中で懸命に動物を助ける院長さんたちは本当にすごいと思いました。
販売	野菜を袋詰めする際に細かい詰め方があるのを知って驚いた。一目見ると無造作に詰められているように見えて実は種類によって正しい詰め方があるとは思いもしなかった。自分の袋詰めした野菜が並べて売れていく様子を見て、ちゃんとできていただろうか心配した反面、嬉しかったりで、現場の雰囲気を体感できたと思う。
福祉・介護	普段できないようなことを体験、見学でき、高齢者と接する際の注意点や話し方のコツを分かりやすく教えていただきました。そして、福祉施設の裏側の仕事（高齢者にお出しする料理の献立のたてかた等）なども教えていただけました。施設の方に教わり学ぶことは多々あったのですが、高齢者の方からも学ぶことがたくさんありました。一日という短い期間でしたが、短いながらも収穫のある充実した大きな一日にすることができました。普段体験できないような貴重なことばかりでしたので、それを無駄にはせず、就職活動等に役立てることができれば今日の体験をより有意義なものになると思うので、今日の体験を忘れぬよう今後の生活に役立てようと思います。最後に、またこのような機会がございましたら、福祉施設に行きたいと思います。
幼児教育 ・ 保育	私は小さい子どもの面倒を見ることは慣れていたので、やる前は自信がありました。なぜなら、家にも２歳と５歳の子どもがいるからです。でも、やってみると自信はだんだんと小さくなり、消えてしまいました。私は他人の子どもの面倒を見ることをしたことがありませんでした。それに、２、３人でなく何十人という数の面倒も見たこともありません。しかも、人の子どもの命を預けられるというのはとても大変です。私は保育士というのはとても大変なことだと知りました。他人の命を預かる。一人一人のことを知っておかなければならないこと。しかも、子どもたちが寝ても仕事はまだ続いていること。保育士には休憩もほとんどないこと。一人一人が怪我しないかちゃんと見ること。いろんなことを知り、勉強になったと思います。
理容・美容	とても良い人たちでやりやすかったです。予約制で一人一人のお客様を大事にしてつくすというのが素晴らしかったです。ロッド巻きはすごく難しくて焦りました。一つ一つの作業が大事で手を抜くことはすべてをダメにすることで大切に大切にやりました。ホットカラーを巻くこともとても難しかったです。熱くて真っ直ぐにやらないとぐちゃぐちゃになって…。「上手い！」と言われました。すごくうれしかったです。美容についても詳しく教えてもらいました。どうしてパーマをかけると髪が痛むのか聞いたら髪の毛の組織を壊すからだそうです。色々な髪の色や髪型、美容についてたくさん教わりました。私に似合う色も教えていただきました。色々な道具を触らせていただき、とても楽しくやらせていただきました。あんなふうに人につくして笑顔にさせること、してみたいです。難しかったけど、いい体験をしました。夢って素敵だ！

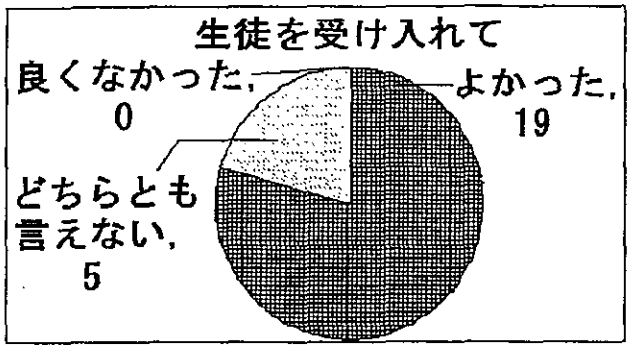


＜事務関係にて＞

＜幼稚園にて＞

10　事業所の反応





1．生徒の取組み

<よかった点>

・　みんな素直な子だったように思う。
・　お年寄りのことを少しでも理解してもらえた。
・　これからの進路意識が高まった様子。
・　体験を自分の活動として丁寧に行っていた。
・　学校生活態度とはたぶん違っていると思います。ビデオで撮ってお見せしたいくらいの別の顔、真剣にしっかりとした態度で臨んでいました。社会性が年齢らしく身に付いていることなのでしょう。

意見交換会の様子

<悪かった点>

・　自己主張ができない。おとなしくてあまり会話がなかった。
・　会話時、相手の顔、目を見て話せない。姿勢を正せない。
・　一部の生徒は途中から飽きがきたのか投げ出してしまったこと。
・　高校生の言葉遣いがやや悪く（子どもの前で）子どもが驚いていた場面があった。
・　女子生徒さんの中で化粧をしていた方がいて現場としては不適切であった。
・　体験中に飲食や携帯電話の使用が見られた。

2．生徒を受け入れて

<よかった点>

・　社員教育の一環となった。
・　若い方に職業意識というものを気付いてもらう役割（社会的使命）は果たせたと思う。
・　新卒採用の良い判断基準を設けることができた。
・　生徒の若いはつらつとした元気な表情や目の輝きに私も夢と希望に溢れていた頃を思い出し、初心に帰って頑張ろうと彼女達にパワーをもらいました。
・　子どもは地域、社会がかかわり協力して一人前の社会人に育てていくのが望ましいと思う。
・　現在の高校生の仕事に対する考えを知れた点。

<悪かった点>

・　突発的な仕事に対応しづらいマイナス面もあった。
・　どうしたら興味をもって一日過ごしてもらえるかが良くわからない。
・　能力（知識）に見合った業務（指導）を用意できなかった。
・　遅刻し迷ってしまい、その連絡の仕方に反省があります。

（2）総合Ｂにおける「校外体験学習」の導入

2年次の総合Ｂは、6月～12月の半期集中1単位の必修科目である。例年、生徒は10程度の講座から2講座を前半・後半で、選択してきた。ここに、本年度から、前後半を通した講座としてインターンシップを組み込んだ。概要および総括は以下の通りである。

1 目的

将来の職業選択を意識し、専門学校での実習または近隣事業所でのインターンシップを選択して、夏休み中に体験学習を行うことで、進路についての意識を深め、社会人のマナーについて学ぶ。

2 事前指導、事後指導の流れ

日程	内容
6月7日	体験学習先希望調査　志望動機のまとめ
6月21日	マナー研修　受講費用の集金
7月5日	事前確認
夏休み中	実習（3～5日）20時間以上をめやすとした。
9月6日	ふりかえり（感想）とお礼状作成、事後アンケート

3 実習

予定通り２８名の生徒が以下の事業所での実習に取り組んだ。体調不良により、１日欠席２名、１日半欠席が１名出たが、全員規定の出席を満たした。

実習先	日数	生徒数	備　　考
アーツカレッジヨコハマ	4	6	事前に協定書を締結 （町田の３校はすべて榎本学園なので、同学園と協定書を結んだ。）
町田美容専門学校	4	3	
町田調理師専門学校 町田製菓専門学校	２＋２	7	
森永製菓　鶴見工場	5	3	横浜北地区インターンシップ協議会経由
ナザレ幼稚園	3	3	昨年度キャリアアドバイザーによる独自開拓
長津田幼稚園	3	2	
長津田幼児アカデミー	3	3	
柿の木台保育園	3	2	

4 実習期間の教員体制

- 「校外体験学習」担当者で、連携先との事前の確認・あいさつを行った。
- 専門学校については、引率を希望する榎本学園に合わせ、基本的に総合Ｂの教員が引率した。
- 幼稚園・保育園については、実習期間中、総合Ｂの教員が随時巡回した。
- 森永製菓鶴見工場は、横浜北地区インターンシップ地域連絡協議会を通しての実習となるため、担当者は鶴見高等学校の先生に対応していただいた（同協議会を通じた他校のインターンシップについては研究開発Ｇの担当が対応）。

5 連携先の評価

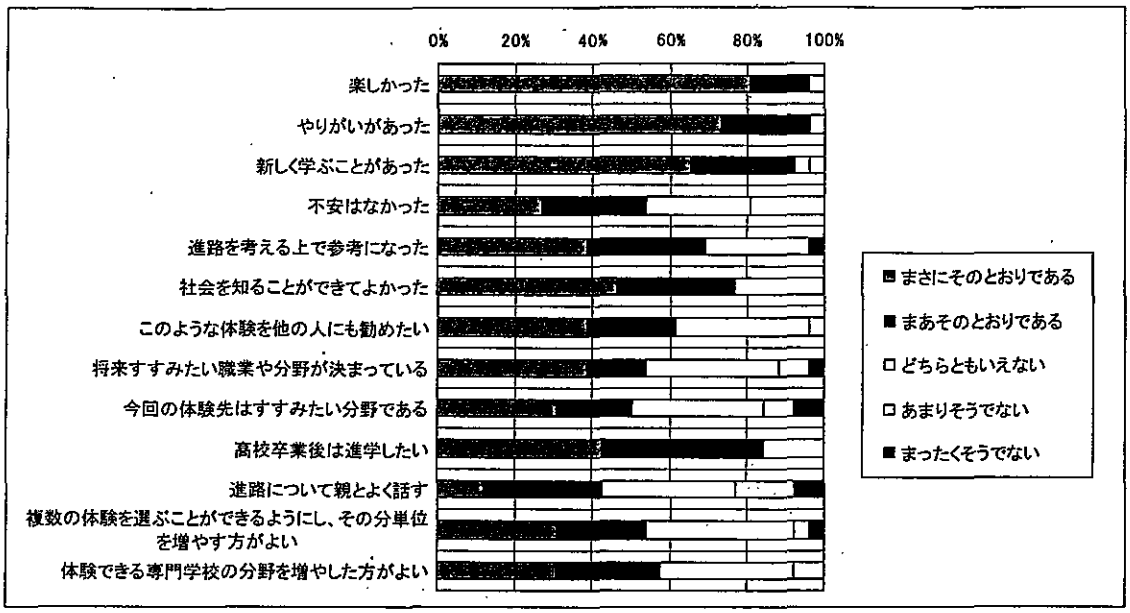
- 生徒の取り組みについては、回答のあったすべての連携先から「よい」とのお答え

をいただいた。

- 専門学校については、５人以上実施が求められている。
- マナーについては、力を入れたつもりだが、服装その他でもう少し事前指導を強化する必要があると感じた（とくに保育園）。

巡回引率した教員から見ても、生徒は実習についてはとてもよく取り組んでいた。

6 生徒の反応



- 「楽しかった」「やりがいがあった」「新しく学ぶことがあった」の項目で９５％以上の生徒が肯定的評価を出している。
- 「進路を考える上で参考になった」への肯定的回答も７０％近くに達している。
- 「このような体験を他の人にも勧めたい」への肯定的回答も、６０％を越えている。
- 選択講座であり、希望した生徒による実習ではあったが、夏休み中に集中して授業を行うため通常授業で放課になるのを目的に安易に選択した生徒もいたことを考えると、上記の結果はたいへんよかったといえるのではないか。

生徒の具体的な声については、後の資料にまとめた。

7 総括と来年度に向けての方向性

- 本年度は、講座の目的を十分に達成することができた。
- マナーについては、服装も含め、もう少し指導を強化する必要がある。
- 生徒の反応もよく高い教育効果を期待することができるため、来年度は、「校外体験学習」に参加する生徒をさらに増やす方向で、より積極的に呼びかける。
- 専門学校実習とインターンシップを別講座にすることも考えられる。
- 連携先の専門学校を増やすかどうかについては、今後、見極めたい。生徒にとっては多様な選択が可能な方がよいが、各校５名以上は人数が集まらないと、連携先の負担感が増してしまうという問題点がある。
- インターンシップについては、幼稚園・保育園以外の希望が出にくい状況にある。この理由としては、横浜北地区インターンシップ協議会経由のものは、本校職員が詳細を把握できていないために生徒にとって魅力ある呼びかけが難しいこと、専門学校での実習の方が敷居が低く取り組みやすいこと、専門学校についてある程度まとまった人数を揃えたいという連携上の配慮が働くこと、などがある。

資料　「校外体験学習」生徒の感想やお礼状から

お礼状から

アーツカレッジヨコハマ御中

まだまだ暑い日が続いておりますが、先生方はお元気でいらっしゃいますでしょうか。

8月27日～30日に体験実習でお世話になりました県立田奈高等学校２年の○○○○です。

体験実習では、コンピュータ自作、知って得するＰＣ操作、オフィスアプリケーション、ゲームプログラミングを体験させていただいて、大変勉強になりました。貴重な時間を割いて親身にご指導くださり、本当にありがとうございました。

１日目、２日目とご指導いただいた山崎先生、ＰＣの組み立て、ランの製作、fire fox のインストールなど大変面白く、タメになることばかりでした。とくにGmail はうれしかったです。

３日目にご指導いただいた北岡先生、オフィスアプリケーションはとても難しいことばかりで、自分はせっかくできたものを消してしまったこともありましたが、とても分かりやすく楽しかったです。

４日目にご指導いただいた大久保先生、ゲームプログラミングは３日目にやったＩＦ関数がでてきたので、少し頭の中がパニックになってしまいましたが、スロットゲームをつくり、できているゲームを改造したりして、とても面白かったです。

今回の体験を通して、自分はゲームの仕事をしたいと思いました。

残り１年半は、そのための準備をしつつ、他の仕事にも視野をむけていきたいと思います。

今後も機会がありましたら、ご指導くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

みなさまのご健康をお祈りしております。

町田調理製菓専門学校御中

この前は調理、見学をさせていただき、ありがとうございます。包丁の使い方や、麺の入れ方、皿の持ち方は小さいことだと思いますが、これらを積み重ね練習することが大事だと言うこと、また将来の事をもう少し真剣に考えなければならないことを学びました。お菓子の分量やナプキンの折り方など、そういう細かいことも大切ですが、努力ややる気なども大切だと思います。

短い間でしたが、とても勉強になり、有意義な４日間を過ごせたと思います。

ありがとうございました。

長津田幼稚園御中

まだまだ暑い日が続いておりますが、先生方、子どもたちはおげんきでいらっしゃいますでしょうか。8月28日～30日に体験学習でお世話になりました県立田奈高校２年の□□□です。

体験学習では子どもたちともふれあい、その他にも先生の仕事などを体験させていただいて、大変勉強になりました。貴重な時間を割いて、親身にご指導くださり、本当にありがとうございました。

この体験ができて、最初はきんちょうで声も小さかったり、なかなか自分からいろいろできませんでしたけど、子どもたちからいっぱい話しかけてもらって、少しずつきんちょうもほぐれて楽しくて充実した３日間になりました。

先生からも資格などのいろんな話も聞けたので、すごく参考にもなったので、今回の体験を通して、自分はぜひ、この分野で将来仕事をしていきたいと思いました。

残り１年半はそのために準備をしていきたいと思います。

今後も機会がありましたら、ご指導くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。みなさまのご健康をお祈りしております。

感想から

- “好き”という理由だけではやっていけないことがわかった。けど、ぎゃくに好きでないとやっていけないことだと思うこともありました。 (長津田幼児アカデミー)
- 初日から迷ってしまい危うく遅刻をしてしまいそうだった。初日はパソコンを自作してインストール作業をした。自作は思ったより簡単だった。インストールしたプログラムは結構使えたので、自分のパソコンにインストールして使っている。２日目はタイピングのブラインドタッチの練習をした。ブラインドタッチがむずかしかった。みんなでトーナメントをやったけど先生に負けてしまった。ちょっと悔しかった。はじめて聞いたけど、有名だといわれているタイピングソフトがあってすごいためになるソフトだった。(中略) この体験で将来のためにエクセルという貴重なことを勉強した。活用してみようと思った。この体験をやってよかったと思う。 (アーツカレッジヨコハマ)
- 僕は２つ行ったけど、まず森永工場はとにかく疲れたけど、やりがいはあったし、なんといっても工場の人がやさしいひとばっかりだった。最初はちょっと緊張してたけど、けっこうきらくになった。でもずっと立ちっぱなしの作業だったのでけっこうつかれはのこった。けどけっこう楽しかったからいいかなと思っている。どうやってお菓子が作られているのか、どうやってはこばれるのかとかがわかった。でもずっとチョコを見ていたので、しばらくチョコがいやになりました。 (森永製菓)
- 町田美容専門学校に体験に行って、自分の将来やりたいことが決まりました。カットの技術やアップ、着付けやメイクやネイルなど色々なことを学べたし、美容業界の大変さ、楽しさがよくわかりました。ビデオで見たヘヤーショーがすごくて、自分もやってみたいと思いました。また、在校生の方たちが優しくてわかりやすかったし、楽しくできました。先生方もすごく優しかったです。技術の方はワインディングが楽しかったです。パーマが綺麗にかかって嬉しかったです。カットはグラデーションが難しくてあまり出来ませんでした。最終日にやったネイルのマーブルが上手くできて良かったです。あとドールメイクはほほに書いた市松のハートが結構綺麗に出来て、部屋にかざりました (笑) また行きたいと思いました。 (町田美容専門学校)
- 町田調理師専門学校では、初めて知ることや色々な道具を見せてもらったりして、休みの時間に体育館も貸してもらい、すべてが新鮮ですべてが楽しかった。マナーも教えてもらい、ナプキンの王冠も「こうできているのか」と覚えたこともあった。町田製菓学校では砂糖にもいっぱい種類があることやショートケーキの作り方を教えてもらえた。ショートケーキの生クリームを混ぜる時、ものすごく力がいることを知った。パティシエもものすごい力と新鮮な技、そして芸術センスが必要だと思った。ナッペという作業は楽しかったし、ローズ絞り、シェル絞りは真剣に取り組めた。 (町田調理師・町田製菓専門学校)
- 中学生の時、一度体験してた幼稚園の先生。今回、校外体験学習でまた体験しに行って来て、さらにいろいろ学ばせていただけました。中学生の時は、子供達と遊んだり、そうじをしたくらいで、今思えばまだ全然楽な仕事でした。今回はもう結構きつかったです。子供達と遊ぶのはもちろん、集会の準備や子供の使った後のドロだらけのおもちゃ洗い、そうじは先生みんなで力を合わせてやってて、団結力がすごいと思いました。一番思ったというか感じたことは、先生はいつもニコニコで優しく接してくれてたけど、実は裏ではいつも子供達のために一生懸命働いていてくれたんだってこと。それを思いながらがんばってるとちょっと泣きそうになりました。でも、大変だったけど、子供の目線にも先生の目線にもなって、体験できてすごく良かったと思います。 (長津田幼稚園)
- 今回の体験はとても勉強になり、とてもいい体験になったと思う。今まではあまり料理をしなかったから、料理をするということがとても大変で、かなり奥が深く、道具の使い方などのちょっとしたことで味が変わるということを知ることができたと思う。先生方の話もとてもいい話で、これから進路を決めるのにとてもさんこうになる話だったし、進路だけではなく、これから生きていくことのさんこうにしたいと思う。今回の体験をして、将来はこのように、何かをつくったり、なにかを人に教えるよう仕事をしてみたいと思った。 (町田調理師・町田製菓専門学校)

（３）総合Ｂにおける「地域で福祉を体験する」の実践

～「フローレンスケア美しが丘」での介護体験を中心に～

１　目　的

高齢社会の現状と介護の実際を知り、その課題について考える。さらに、地域の高齢者介護福祉施設での体験を通して、高齢者との交流を図り、介護に関わる職業の現状を学ぶ。

２　受講生

前半：２年生１０名（女子８名　男子２名）
後半：２年生１０名（女子８名　男子２名）

３　講座の流れ

１）　前半

	日　程	内　　容
1	4月19日	人の一生と健康問題にそって、歳をとることについて考える。 介護保険法など高齢者に関する情報をインターネットを用いて調べる。
2	6月7日	高齢者の身体的な実状を体験キット（もみじ箱）を使って体験する。
3	6月14日	介護体験に向けてのオリエンテーション （施設の概要と社会人としてのマナーなどを確認する。）
4	6月23日	（校外体験）介護体験（５名）
5	6月30日	（校外体験）介護体験（５名）
6	7月5日	ふりかえりとお礼状作成
7	9月6日	車椅子体験と座ってできるレクリエーションを考えて実践する。 講座のまとめ

２）後半

	日　程	内　　容
1	10月11日	人の一生と健康問題にそって、歳をとることについて考える。 高齢者の身体的な実状を体験キット（もみじ箱）を使って体験する。
2	10月18日	介護体験に向けてのオリエンテーション （施設の概要と社会人としてのマナーなどを確認する。） 車椅子体験と座ってできるレクリエーションを考えて実践する。
3	10月27日	（校外体験）介護体験（５名）
4	11月10日	（校外体験）介護体験（５名）
5	11月22日	ふりかえりとお礼状作成
6	12月6日	施設のイベントに向けて、飾りや折り紙を用いた小物を作成する。 講座のまとめ

備考：前後半は、施設での介護体験までの授業数が異なるため、内容にも変化をもたせた。

４　介護体験

１）体験先：フローレンスケア美しが丘
　　横浜市青葉区美しが丘４－４３－４

2）実習の流れ

８：５０	集合・待機
９：００	施設長による施設の説明・案内 担当スタッフとの顔合わせ
９：３０～	ラジオ体操・水分補給の補助・見守り
１０：００～	入居者の方々との歓談
１１：３０～	昼食準備（配膳・お茶配り）・嚥下体操
１３：００	実習のまとめ 終了

3）生徒の感想

- リラックスタイムの時は、お年寄りのことを気にしつつ、自分達の仕事をするのは大変だと思いました。スタッフの方がとても楽しい方でした。
- おばあちゃんが、水彩画を描いてくれようとしてくれたけど、うまくできなかったらしく、もらえなかった。でも気持ちだけでもすごく嬉しかった。お茶を配った時に、「ありがとう」と言われるとなにげに嬉しい。
- 普段やり慣れていないことをやったせいもありますが、半日なのにとても疲れました。ほぼ、毎日やっている介護師の方は、もっと大変なんだと思いました。今回フローレンスケアに行ってとても良い経験ができました。お年寄りは人生の先輩です！！
- 私が担当した階は、この施設では割と元気な方達がいる階で、おしゃべりもどんどん進んでいって、楽しく過ごすことができました。機会があったらまた行ってみたいです。

4）施設の方のお言葉

- 人の話を聞く態度も含め、素直でとってもかわいい女の子です。細かいところも自分なりに感じたように思えます。今日はありがとうございました。機会があったら次に会いたくなるようないい性格です。これからも頑張って下さいね。
- 入居者様にきちんとあいさつをして頂き、皆様笑顔でお話しをしていました。お疲れ様でした。
- 性格が明るく、とっても好青年です。スタッフの説明も素直な態度で聞いてくれ楽しい時間を過ごしました。これからもこの気持ちを忘れずに！
- 初めての経験なのでしょうか、最初大変緊張されていましたが次第に入居者様達のテーブルの中に入ってお話しして下さり、清掃などお手伝いして下さいました。お疲れ様でした。
- 静かな口調と優しい語りかけで入居者の方々とお話しして下さいました。皆さんとても喜ばれていました。相手のお顔を見て話されることがとても大切だと私共も再度教えられた様な気がします。いつまでもそれを忘れないでいて下さい。

5　総括と来年度に向けての方向性

- 施設スタッフの方は、生徒の介護体験を快く引き受け、積極的に受け入れ体制を整えて下さっている。時節柄や施設のイベントなどもふまえて、事前に施設の方と連携を取り、高齢者の方々に喜んで頂ける贈り物やイベントの企画なども考えていきたい。
- 生徒の感想から、施設の設備などの印象よりも、入居者を支えるスタッフの方々の働きぶりやお人柄に強く感銘を受けていることがわかった。事前学習において「介護師」という職業について、より知識をもち興味・関心を高めて体験に臨めるような学習内容や形態を考えていきたい。
- 施設の方のお言葉から、気持ちの良いあいさつができることや相手に喜んで頂けるような傾聴の姿勢が、介護体験をさせて頂くにあたりとても大切であることがうかがえた。事前のマナー学習において、特に挨拶と傾聴する姿勢に焦点をあてた学習が効果的なのではないだろうか。

2　中央大学とのキャリア教育連携授業について

1　流れ

2007年3月　古賀正義教授（中央大学教育社会学研究室）による研修を兼ねたプレゼンテーション

進路多様校の場合にはキャリア教育のモデルを変えていく必要があり、「目的達成型モデルからリスク回避的モデルへ」の移行が求められている。

職業意識の醸成を図って目標を設定し、それを実現するために面接や資格などのスキルを習得するという従来型モデルでは、多様な雇用のあり方や転職が多い現在の職業世界に対応しきれないことから、転職やフリーター経験も含めたケース＝先輩の生き方・あり方を理解し考えることを通して、変化のためのスキルも含め、実際の職業世界への適応するためのスキル形成を促す研究授業を試みたい。

2007年4月　連携について職員会議で了承

2007年6月7日（木）　第1回研究授業　3校時1-2　4校時1-7

2007年11月8日（木）　第2回研究授業　3校時 1-2　4校時 1-7

2008年3月15日（土）　「生徒の変化とキャリア教育の今後を考えるフォーラム」（中央大学）にて研究報告

2　研究授業の内容

古賀研究室作成のプログラムは、今まで数年間にわたって同研究室が継続して収集してきたインタビューデータを元にしたケーススタディを核として構成されていた。等身大の若者の存在とそのキャリア、それについて語る若者自身のことばをできるだけリアルに提示することを通して、ともすれば不安定になりがちなキャリアをいかに生きていくかを、高校生に考えてもらうことに主眼を置いたプログラムとなっていた。

第1回、第2回とも、はじめに、古賀先生よりパワーポイントで映像や音声も使って、できるだけリアリティのある形でケースが紹介された。

■ Aさんのケース：アルバイトしていた地元のスーパーで契約社員となり、精肉部門でベレー帽のかわいいユニフォームを着て働く。彼女は、現在の雇用形態に必ずしも満足しているわけではないが、同じくらいの年齢のアルバイト友達や地域の顔見知りのお客さんに囲まれた職場の居心地のよさも語り、正社員になると他店舗への異動があるのが嫌で現在の勤務形態を継続している、と言う。

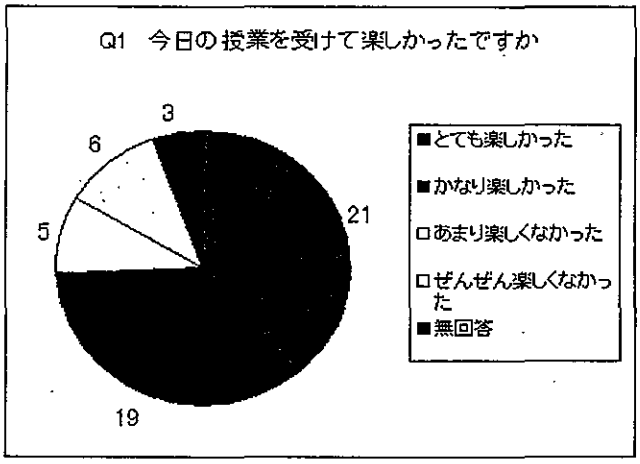
■ S君のケース：フリーターの兄がいることもあり、必ず就職しようと決めて、給料も高く資格もとれるというガソリンスタンドに就職した。ところが、先輩たちの姿をみているうちに、給料がこの先それほど大きくは上がらないこと、正社員がアルバイトのシフトの穴を埋めなければならず休みが安定しないこと、高いレベルの資格はとれないことなどに気づき、退職。同じガソリンスタンドでアルバイトしながら、趣味のバンドを再開するなどフリーターになっている。インタビューにはS君の揺れがそのままに示されていた。

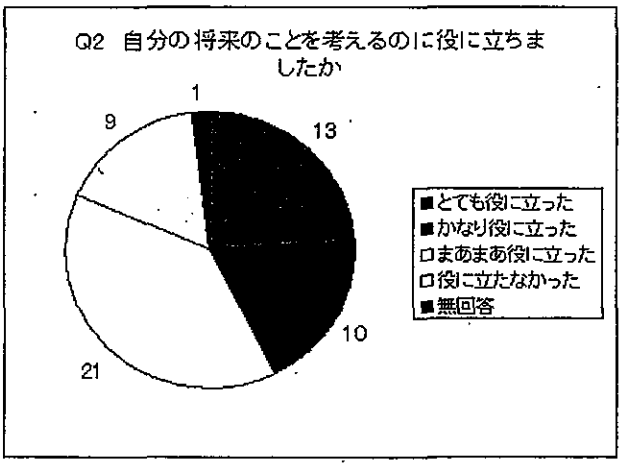
■ Kさんのケース：3年の秋になって偶然そういう選択肢を知り、看護学校に通いながら准看護士として働くことを選択したKさんという女性のケース。Kさんは、仕事の大変さを語りながらも、わからないこと

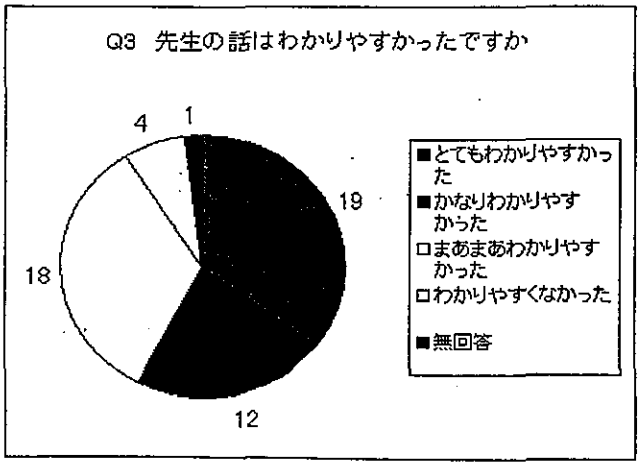
は周りに聞きながら乗り越えたり、つらいことは上手に忘れたりしてやり過ごし、患者さんとの会話に楽しみをみつけたりしながら、日々を生きている。

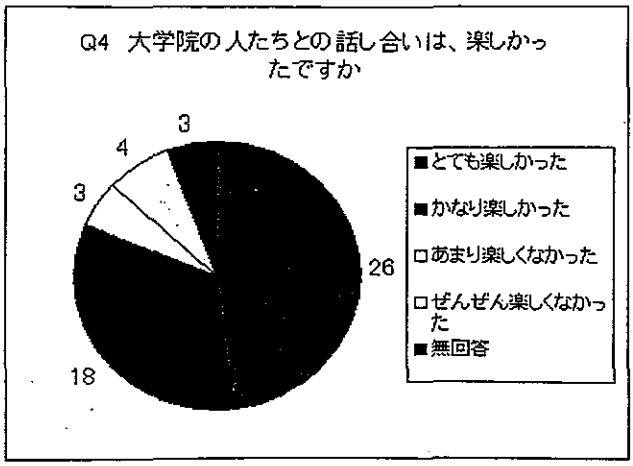
この後、生徒たちは、紹介されたケースの先輩の生き方をどう思うか、６人×５グループに分かれ、大学院生がファシリテーターに入って、ディスカッションを行った。第１回目は説明に時間を取り過ぎ、あまりディスカッションに時間がとれなかったが、２回目はまとまった時間をとることができた。各グループにファシリテーターとして研究室の大学院生が入ったため、ふだんは黙ってしまいがちな生徒たちも、うまく反応を引き出された面があったようである。生徒たちにとっては、年齢が近い大学院生は、教員よりも親近感を持って向かえる相手であり、また、院生自身が、生徒が話しやすい問いやコミュニケーション・スタイルを意識して、場をつくっていた効果もあると考えられる。例えば、女子ばかりのグループに入った女性の院生が、「合コンするのに、相手がフリーターだったらどう？」「それが30歳くらいになってからだったら？」などと問いかけ、生徒たちは、本音で考え語りあっていた。とりわけ、盛り上がっていたのが、自分たちのアルバイト経験を語り合う部分である。そうした経験を語り合いつつ、将来の仕事やその選択についてもリアリティをもって、考えているようだった。イッツ・コムのインタビューに答えた生徒も、ディスカッションを通して、「みんなの話がいろいろきけてよかった」と互いの経験をシェアできたことを挙げていた。

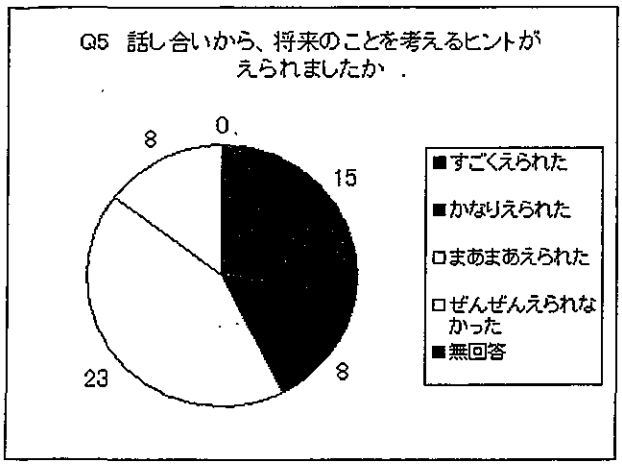
３　生徒のアンケート結果

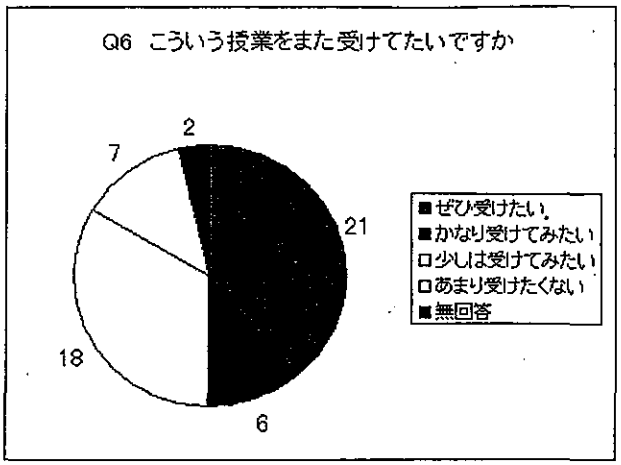












自由記述から

コミュニケーション派

- 楽しかった（9名）・おもしろかった（2名）　・よかった　・笑える
- ありがとう　・すごく楽しかったです。また来て下さい（3名）
- 話がずれたけど、楽しかった。　・今日1日ありがとうございます。話が楽しかったです。
- なんかいろいろ話せて楽しかった。　・自分のことが言えたのでよかった。
- 自分の言えることが言えてよかった。カメラにもうつれたし最高！！
- たいへんだけど、よかった。　・ありがとうございました。
- あまり話せなかったけど、楽しかった。　・話しかけられる確率が高かった。

役に立った派

- 将来のことについて役に立ちました。またこの授業を受けたいです。
- 将来の役にたったと思う。　・これからの目標に役に立ったと思います。
- とても充実した授業になった。
- ありがとうございました。将来のヒントになりました。
- 将来のことはまだわからないけど少しずつ考えていかないとと思った！
  まだ将来について考えてないけど、考えたほうがいいと思った。
- いろいろな意見が聞けて参考になった。
- 自分のことを考えるいい機会だった。夢をかなえるのは簡単じゃないから、もっと考えようと思った。

やっぱり好きなこと派

- 今は遊びたいから将来のこととかまだわからない、でも自分の好きなことでお金がもらえるようにかんばる。
- よくわかんなかったけど、私は好きな事をやりたいです。

つまらん派

- つまらん、次はお前だ！　・つまらん、からだだるい。
- つまらねー!!少しだけ楽しかったかも。　・つかれた。
- ねむいよ、ビデオか映画みたい。　・ケーブルテレビよんでこいよ。

その他

・将来は決まっているので、とくに利にならなかった。

・１～６のアンケートで３にしていますが、ほとんど「どっちともいえない」です。つまらないというわけではないので。

4　成果

研究授業を通じて、このようなケーススタディを通したキャリア教育プログラムには次のような可能性が開かれていると感じた。

1) 身近で等身大のケースについて自分のことばで語り合うことで、生徒の間に、進路について日常的に語り合う関係を築くことができる。

2) 多様なキャリア・パスのメリットやデメリットを自分に引きつけて、将来について考える機会をつくることができる。

3) 進路についての同世代のさまざまな経験や語り方を知って、それらを自分に役立つ形で利用できる可能性がある（例えば、仕事に就くのは「好きだから」だけじゃない／何を大切に思うかで、いろいろな働き方があって、迷いながらみんな選んでいる／仕事のつらいことも何とかやりすごして気分転換し、乗り越えていく生き方もある／自分なりの楽しみを仕事の中に見つけて語ることで自分を支えるやり方もある、など）。

また、授業の形態として、

4) 年齢の近い大学院生の存在がディスカッションに有効だった。今後、地域運営学校へ向けて、地域の大学生や大学院生などの人材資源を生かしたプログラムづくりが有効だろうと思われる。

そして、今後に向けての示唆として、

5) 今回は、古賀研究室の研究データが提供されたケースだったが、すでに働いている本校卒業生を訪ねて話を聞くなどの形でも、生徒が等身大の経験を知り、将来について考える機会にすることができるのではないか。

6) 生徒たちはすでにアルバイトを通して働く経験をしてきており、新鮮なその体験について語り合いたいという欲求を持っていることがわかった。これをモチベーションとして、今後校内で、アルバイトから働くことについて考えるプログラムづくりができるのではないか。

Ⅳ　実践研究報告Ⅱ　～授業改革への取り組み～

3　授業改革アンケートの実施とその活用

（1）アンケート実施に至る経緯

本校には、学力に課題を抱える生徒が多数入学してくる。学習に向き合う意欲が乏しい生徒や、真面目に取り組むが、基礎的な学力が不足していると思われる生徒に対して、教員は日々の授業で様々な工夫をし、生徒の学習意欲を向上させる方法を模索している。学力向上のためには、まず現在行なわれている各教員の工夫を持ち寄り、共有することが有効ではないかと考え、9月末にアンケートを実施した。アンケート項目は次の通りである。なお、アンケートは教科と教えている学年を書くが、無記名とした。

1．田奈高校の授業で工夫しているところ（あるいは気をつけているところ）。
　① 教材について
　② 授業の展開について
　③ 生徒への対応について
　④ その他
2．上手く行っていると思う部分。
3．上手く行っていないと思う部分があれば、それはどのようなところか。
4．現在、授業の中で、生徒の学習意欲を高めるために行っていること。
5．今後、授業で取り組んでいきたいと思っていること。
6．他の人の取り組みで、いいと思う取り組み。
7．授業改革に向けて、研究開発グループで取り組んで欲しいこと。

（2）アンケート結果

行事前の忙しい時期で、記述する部分が多いアンケートだったこともあり、アンケートを提出したのは、9名にとどまった。しかし、提出されたアンケートは、どの項目もびっしりと書かれ、貴重な意見が多く含まれていた。そこで、アンケート結果を、項目別にまとめて通信の形にして、全教員で共有できるようにした。アンケート結果及び通信は次の通りである。

＜田奈高等学校の授業改革に向けてのアンケート結果＞

1．田奈高校の授業で<u>工夫しているところ</u>（あるいは<u>気をつけているところ</u>）

① 教材について

- プリントを穴埋めにし、写すのに疲れて話を聞けなくならないよう、負担を少なくしている。（理）
- 視覚的に印象に残る物を使うようにしている。（家）
- 内容の質は維持しつつも、量を少なく、説明をわかり易く、と心がけている。教科書を使わなくても良いようなプリントを用意する。自己評価ができるような課題を用意する。（芸）
- 応用問題希望者にはプリントと個別レッスンを提供している。（数）
- 日常の話題から、英語を導入するようにしている。テキストを少しアレンジして。（英）
- 教科書を中心に、書く作業とノートの提出を必ずするようにしている。（保）
- ゲームを多くする。（体）
- 生徒の思考や判断に重きを置く内容の時は、プリントを準備。できる生徒は自分で進められるように、できない生徒は個別指導できるようにする。生徒の興味・関心を引き出したり、理解を深めるために、IT 教材を活用。理科ネットワーク（JST）や東京書籍、NHK などのアニメーションや動画をスクリーンに投影している。（理）
- 自分たちの日常生活に活かせるもの、今までの経験を活かしていけるものを取り上げる。とりかかりやすく、そこから幅を広げていけるものを選ぶ。最終的に全員が完成（終了）できる形で実施す

る。(家)
- 一時間で使うプリントを説明用と問題演習用に分け、生徒が取り組みやすいようにしている。(数)

② 授業の展開について
- できるだけ授業の最後に問題を出し、本人の理解度をチェックさせている。(理)
- 50 分×２時間続きということで、飽きない展開を。プリント（硬筆)、磨墨、字書や携帯での調べなど。(芸)
- 板書し、全員書き終えてから説明を始める。生徒はノートを取ることに集中して、話が聞けないので工夫している。(数)
- 聞く ⟶ 練習 ⟶ 書く ⟶ 発表　ができるようにしたい。(英)
- 毎回同じ流れで授業を進めている。
- 説明する際、身近な例や、小学校で獲得する概念から拡げていくように心掛けている。考えたり、表現したりする時間と、課題を用意し、机間巡視をしながら声掛けをするようにしている。教科書を利用した調べ学習は、全生徒が意欲的に取り組んでいたと思います。(理)
- 2 時間連続の座学の時には、途中で自分で考えて行う作業を入れたり、授業の終わりに「学習チェック」として、その時間のまとめテストのようなものを行い、各々がその日何をやったかがわかるようにする。
- 2 年生はＴＴをしており、授業を進める人とフォローに入る人が分担できて、生徒の学習意欲や成果が上げられている（赤点になりにくい)。これはとても効果的である。(家)
- 9 月から試み始めたばかりですが、グループ学習を取り入れている。「分からないときは、まず周りに聞いてみよう」と指示をしている。(数)

③ 生徒への対応について
- 昨年は、うるさい子ばかり当てて発言させていたが、今年はまんべんなく当てるようにしている。
- 授業についてこられる力のある生徒には、ハードルを上げて、厳しく甘えを許さない姿勢を示し、理解がのんびりな生徒には個別対応をする。(芸)
- 基本を説明した後、生徒同志で教えあいの授業にしている。(数)
- 注意はするが、授業を進めることをより重視している。(英)
- 全体への指示に加えて、個々人の近くに行って指示をする。繰り返し声かけをするようにしている。（体)
- 会話を大切にしています。私語が多い生徒は発言の機会を多くし、誉めることで授業に向くようにし、静かに取り組む生徒は机間巡視の際、個別に誉めたり、励ましたりするようにしている。
- 授業開始と終了の時には礼をするようにしている（一学年のみ)。
- 実習では、手の止まっている生徒を中心に、声かけと個別のサポートをする。一人一人の頑張りをほめる。(家)
- 座学では、生徒の発言を大切にしたいと思っているが、なかなか上手くいっていない。

④ その他
- 携帯電話をいじっていると授業点を減点しています。それは毎回プリントを集め、評価とメッセージ（減点理由、立ち歩き、ケータイ、注意多い、睡眠等の簡単なもの）をつけて返すと昨年よりはるかにいじる子が減りました。
- 一回の授業で必ず一回は全員と話をしている。
- 課題やノートの提出機会を多くしている。
- 一つのテーマが一回の授業で終わるよう、内容の精選と適度な課題の提示に心掛けている。

２．授業で、上手く行っていると思う部分
- 今の生徒の気持ちをよんで、言葉にしてあげる。その後に「頑張ろう」と声をかける。

・ 使った用具を自ら片付ける、清書を前に提出する、その他の練習作品の管理は自分で行う。(以前はこの基本すらできていなかった)(芸)
・ 3年生の選択、2年生の自由選択など少人数授業(20人以下)では、生徒自らの創作意欲を引き出しながらの授業を、余裕を持って展開することができる。(芸)
・ 生徒とのコミュニケーションのとり方。集中する時としない時のメリハリのつけ方は上手くいっている。
・ 一人ひとりと対話できる時間をとれる(語学だからか)。(英)
・ キレそうな生徒にもギャグで対応できる。
・ 一人一人に根気強く話しかけていると、だいぶ全体への指示が通りやすくなってきた気がする。(体)
・ 生徒の発言を活かして、授業を深めていこうとしている点。

3. 授業で上手く行っていないと思う部分
・ 楷書などの実字的な部分、目に見えて理解が容易な分野には興味を示すが、○書、○書などの実用的でない部分や、感性に訴える芸術的要素の高い分野には抵抗が多く、多人数の時は、うまく生徒を乗せることが難しい。(芸)
・ 考えなければ行動できないような課題、考えて工夫しなければならないような課題には、積極的に取り組まない。
・ もっと発展した内容の授業でないと退屈してしまう生徒への対応。(数)
・ 板書が一定していない(生徒が見て、どれを書くのか理解できないときがある)。(英)
・ 生徒のノート指導。
・ 体育で出席者数が激しく少ない時、いつも頑張ってゲームに取り組んでいる子の対戦相手がマンネリ化してしまう。予測不可能な人数の変化を予測した対応が必要。(体)
・ 50分間、考えて取り組むような授業展開ができていない。理解できていなく、板書を写すだけの生徒がいる。話を聞いて理解できる生徒が少ないので、生徒が考えるような設問をし、つまづきに気づいて助言するような立場でいたいが難しい。(理)
・ 生徒の発言から授業をうまく進めていくこと。

4. 現在、授業の中で、生徒の学習意欲を高めるために行っていること
・ なぜ学習しなければいけないのかを将来的、現実的な視野から分かるように話すこと。
・ 生徒の創作欲求を刺激し、出てきたものは可能な限り、受け入れてやること(少人数の場合)(芸)。
・ 3年生に対しては、進路に向けて、硬筆、新聞記事、履歴書などを取り入れる。(芸)
・ 生徒が最近興味を持っている情報を早くつかんで、授業に取り入れる。(数)
・ 難しいことを習っているのではないと安心感を与えたい(多くの場合)。易しすぎるときは発展させたことを言う。(英)
・ 2,3年生はゲームをすることで(時間管理をして長くとること)、意欲が保たれているように思う。一年女子は他の人とマッサージし合ったり、簡単なリレーゲームなど遊びを入れて気分転換をしている。(体)
・ できた生徒を誉めることで、生徒間で教え合うことができる雰囲気を作る。IT教材を活用して視覚的に理解させる。(理)
・ その日のポイントを絞ること(あまり難解にしない)。(家)
・ 「学習チェック」や、「自己評価」で、各自がその時間を振り返ることができるようにする。(家)

5. 今後、授業で取り組んでいきたいと思っていること
・ これから計算問題が増えるので、可能なときだけでもＴＴを取り入れる予定。(理)
・ グループ学習や共同作業。お互いの作品を批評しあうなど、コミュニケーション力、相手を思いやる気持ちを育てたい(今も少人数授業では取り組んでいるが・・・)。(芸)

・ 指名した生徒に予習させて、ゼミ形式で行いたい。
・ 共通文法教材の作成。Visual aid の導入をもっと。(英)
・ ゲームではなく、基本的な練習やチームで工夫を生徒自身が考えられるような指導ができるように、私自身頑張りたい。(体)
・ 最初の 10 分間、導入として全体像を説明し、その後 20 分間、教科書を活用して自分で勉強する時間を設ける。最後の 20 分でまとめや具体的な説明をする。家庭学習でするようなことを授業で実施し、自主学習の方法と習慣をつけさせたい。(理)
・ PC を利用した学習。

6. 他の人の取り組みで、面白いなあとか、いいなあとあなたが思っている取り組み

・ ベテランの先生の授業はすばらしい。大きな声を出す訳でもなく、淡々と進めていて、空き時間があればたくさん見たいが、なかなか時間が・・・。
・ 席をグループに分け、グループディスカッションを授業で行っている。
・ 小テスト。(定期的に)
・ 生徒のリアクションに負けて、自分がやろうと思っていたことを実現できない時があるので・・・。常に方針を曲げずに、ルールを貫き通すことをやりたい。

7. 授業改革に向けて、研究開発グループで取り組んで欲しいこと

・ 難しい要望とは思いますが、対象生徒像をはっきりさせて欲しい。各職員が勝手に生徒像を作り、それに向けて意見を言っているように思うから。一つに絞れないとしても、何通りかで。
・ パワーポイントを授業で使えるような環境にして欲しいです。数学は関数の時、特に必要性を感じます。(数)
・ ビデオ撮りしてみる生徒の状況で研修を。

(3) アンケートの活用

アンケート結果は全体に配ると共に、授業評価についての教科会の際に、内容を共有して活用してもらうこととした。しかし、懸案事項の多い会議の中で、十分に話し合いを深めることはできず、活用の仕方は個々の教員に任された形となった。貴重な内容が多く含まれていたことを考えると、今後、アンケート結果をさらに活用していくことが望ましい。それにはアンケート結果を読むことだけではなく、やはり具体的な事柄について、話し合うことが有効であろう。

例えば、項目の1①で出てきた、理科の「プリントを穴埋めにし、写すのに疲れて話を聞けなくならないよう、負担を少なくしている」や、家庭科の「視覚的に印象に残る物を使うようにしている」工夫、あるいは理科の「生徒の興味・関心を引き出したり、理解を深めるために、IT 教材を活用」などは、具体的にどのようなことを行っているのかを紹介してもらうことで、すぐに他の教員の授業に役に立つと思われる。また、項目4の、授業で学習意欲を高めるために行っていることは、行ってみて、どう上手くいっているのか、どこに課題があるのかを深めていくことが、今後の学習意欲向上のヒントにつながると考えられる。次年度にまたがる形になるが、アンケートを更に活用して、議論する機会を作っていくことが有効である。

本校では、生徒指導や、会議、部活動の指導などに追われ、なかなか授業についてじっくり考える時間を取ることができないのが日常である。しかし今回、授業改革にかかわるアンケートを行うことができたのは、やはり、学校の中心は授業であり、授業について検討していくことが必要であるということが認識されつつあるということであろう。今後も、授業について検討していく機会を作り、教員全体で生徒の学力向上に向けて、有効な方法を模索していきたい。

4 授業公開週間の実施と総括

（1）授業公開週間の実施

生徒による授業評価アンケートの結果の検討後、さらに授業研究を進めていくためには、お互いに授業を公開することが必要であると考え、2月上旬に授業公開週間を設定した。入試の準備等で忙しい時期ではあったが、時間の余裕のある範囲で一人だけでも他の人の授業を見ることを目標として行った。一週間の公開週間で、授業見学を行うことができた教員は10名に留まったが、公開された授業は延べ27時間であった。授業見学者には、授業を見て、いいと思ったところを報告してもらう見学メモを提出してもらったところ、集まったメモには、授業を行う上での貴重なエッセンスがたくさん含まれていた。そこで、その見学メモを授業に対するキーワードで編集し、通信の形で発行して全員で共有することとした。

（2）見学メモの内容

キーワード別の見学メモの内容は次のようなものである。（　）内の学年、教科は見学した授業である。

①生徒の心をつかむ話術

声の調子を変えることで、メリハリがついていて、生徒の心をつかむ。古文の文法という普通ならおもしろくない様な授業になりそうだが、ところどころに散りばめられたウイットによって、活き活きとした授業になっている。①「蹴る」の活用。「け、け、ける、ける、けれ、けよ」を覚えにくいから10回言うと覚えられると、本当に10回おっしゃり、「あの人変な笑い方してるな」と言われそう、という時は、本当に笑いそうになるくらいおもしろかった。②突然英語が出てくる「you　see？」「ok？」など。これもいいなと思った。③最後にプリントにない少し難しい問題をさせる時に「応用問題だ」といわず「アドリブだ」とおっしゃったところが、生徒に変に力を入れさせず、リラックスさせて考えさせ、いいと思った。そしてプリントにない、少し考えさせる問題を最後に出すことで、「出来る生徒」への対応もきちんとできていると思い感心した。全体に声に抑揚があり、メリハリがあり、大変素晴らしかった（カラオケがお得意なことも影響しているでしょうか？）（1年・国語）

教室内のムードが落ちついていて、とても和やかでした。一人一人が安心感を持ってここにいると感じました。先生の声のトーン、話すスピード、間合い、指示が短いこと、とても分かりやすかったです。生徒の行動や発言に、甘やかさず、また厳しくしすぎず返していらして、それでいて授業のペースは変わらないため、他の生徒も集中をさえぎられることなく、進行していたと思います。また、授業の中で、ジョーク？しゃれ？が少しずつちりばめられ、単調なはずの変格活用が楽しく感じました。授業の進め方についても、プリントを配る前に今後の流れを説明してらして、生徒も全体像をつかんで今日の取り組みに入っていて、それがより安心感を持たせ、集中へとつながったようにも思います。本当に真似したくても、今の私にはとても真似ができないと思いました。有難うございました。　（1年・国語）

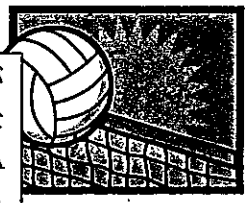
ひさびさに授業における話術の大切さ、有効性を確認することができました。とにかく話が上手い。脳内に浸み込んでいきますね。と言って、聞かせるだけでなく、頭を使わせ、手を動かさせているのはさすがです。　（1年・国語）

徒然草の訳をやっていたが、話に幅があり、一つ一つが生徒の心に残るように教えているので、生徒の心に残っていくのがわかった。その情況が今ここで起こっているかのような臨場感があった。生徒は積極的に授業に参加していて、皆、古文を楽しんでいた。本当に素晴らしかった。　（2年・国語）

② やる気にさせる声かけ

「覚えても忘れるから覚えなくていい」「数学は極力覚えてはいけない」という言葉は大変新鮮でした。１つ１つの作業において、生徒１人ひとりがノートに書き終わるまで時間を取ったり、「大丈夫か？」という声かけを入れているなど、生徒にとっては、授業に置いていかれない安心感があるのではないかと強く感じました。また、説明の速度、声の大きさ、板書の速度などが生徒にとって適度な状況を保たれていて分かりやすいなあと感じました。大変参考になりました。　（２年・数学）

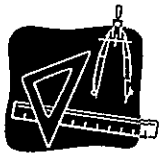
遅刻してきた生徒への関わりが、厳しく、温かく絶妙でした。グループごとの明確な指示が、生徒の素早い行動につながっているように感じました。「全員始め！頑張って今日中に全部終わらせろ！」と言われて、生徒たちには、さあやるぞという空気がみなぎったように思います。皆、意欲的に一斉に始まったのにはびっくりです。集団への指示の出し方、とても参考になりました。皆生徒たちは楽しそうで、熱心に取り組んでいましたね。　（1年・体育）



始まるときに、自然な声かけをしながら出席確認をしているのがいいなあと思いました。生徒の準備をさえぎらない、やわらかな確認でしたね。A さんを自然な流れの中で得点係になさって、A さんはすごく頑張りました。ピーピー笛をふいて「Bさん、やる気あるの？」あの一言で、そのチームは頑張り始めました。それを引き出したのは、先生の「A さん、頼むぞ」の声かけだったように思います。男子チームのゲームに先生が入られたら、生徒たちはグッと締まって、真剣になりました。嬉しそうでしたね。
（1年・体育）

「困った時には」「ここがポイント」等の声かけをし、解法の筋道がとても明快であった。また、声かけ、指名もこまめ、かつ柔らかく、生徒が指されても答えようとする姿勢を作りやすいように見えた。　（２年・数学）

③ 生徒同士の学びあい



全員が授業に参加しているところ、教えたり聞けたりと生徒間の会話が成り立っているところが素晴らしいと思いました。できた、合っていたという時の生徒の笑顔がほほえましいです。能力差の激しい子どもたちの、解る子、のんびりな子のどちらもが参加し、満足し、力をつけることを求められている今、様々な試みに挑戦されている姿勢には頭が下がります。　（1年・数学）

A さんに先生が個別に関わった後、A さんがやる気になり、Bさんに「(3) 解けそう、半分やろうよ」と誘って、二人で黒板で協力しながら解いていたところが良かったです。また男子４人組の熱心さ。他の子の答えを見て、自分の答えを確認して、また考えていました。Bさんはおしゃべりをしながらも、しっかり聞いています。「特別な角度」という先生の説明で、授業に戻ってきて参加して答えましたが、誉められて嬉しそうでした。先生が別解を説明した後、C君から「全部この解き方でできる？」という質問が出たのがすごい。生徒の意欲を感じました。最初に事件があったにもかかわらず、生徒は授業の内容に入っていっていて、教室全体に真剣な空気を感じました。また、先生の生徒への対応に余裕を感じました。田奈で数学を長く教えていらして、生徒の反応もよく分かっている余裕ですね。大変参考になりました。
（1年・数学）

メンデルの遺伝の法則をプリントでまとめる授業で、「テキスト、ノートを見ていいし、友達と相談しても良い」という授業形態。半数近くの生徒が「どこ？どうして？」などと相談しながら、いわゆる『生徒同士の学びあい』がされていて良かった。生徒も能動的で活き活きしていた。　（２年・生物）

④ 学びに向かう教材の工夫

プリントが初めからやっていくと、自然に考えられるようになっていて、驚きました。プリントの段階でしっかり考えていると、素晴らしい作品が出来上がるのでしょうが・・？専門家がお二人いらして、そのアドバイス（個別指導）が入ると、それまで何もやっていなかった生徒が、筆を持って書き始める姿を見て、適切な個別指導の必要性を痛感しました。人数が半分くらいだと、もっと集中してキャンバスに向かうことができると思いますが・・。　（2年・美術）

単語調べ、単語練習、リスニング、訳など、きめ細かいプリントでびっくりしました。レベルの違う生徒達も、50分の中のどこかでは授業に参加できるような工夫がされていると感じ、参考にさせていただきたいと思います。
（2年・英語）

答え合わせ、テープを聴く、スペリング、読み、プリントの穴埋め、和訳と6種類の活動が展開し、飽きさせない流れの中で、自然に生徒の集中が高まっていく様子にびっくりです。全員が最後まで終わるまで待つのではなく、ある程度のところで切って次に進むのも、緊張感を持続させることにつながっているように感じました。何よりすごいのは答え合わせ！皆が赤ペンを持って○つけをしています。解いただけで終わらないで答えを確認するって、大事だけどなかなかできないことのように思います。適度に生徒がわかって、答えを知りたいと思うレベルの課題設定が上手くいっているのだろうと思いました。大変参考になりました。（1年・英語）

様々な要素が組み入れられた自作プリントに基づく授業でしたが、10分位の単位で、学習活動が切り替わり、生徒が飽きずに取り組むことができるように上手に構成されていました。生徒も一年間を通じて、この学習形態に慣れていて、自分たちがしなければならないことをよく分かっており、自分から取り組む様子が印象的でした。また、学力が不足しがちな生徒によく声をかけ、授業に上手に参加させていらっしゃいました。
（1年・英語）

⑤ 生徒との絶妙なコミュニケーション

生徒との掛け合いで進む授業。「これ何だっけ」「×××」「そうだね」「×××」「料理うまいよ」「はいこの場合は」「×××」・・・「発問＋返答」であっという間に一時間。授業に関係ないのも無視せず、適当に受け流して、生徒は参加の実感、達成感を得たものと思います。
（2年・数学）

声が全体に通り、黒板の字もはっきりとしていて見やすかったです。生徒の雑談にも適度に応じ、コミュニケーションをとりながら、メリハリをつけてやっている印象を受けました。　（1年・化学）

生徒への応答、対応が速い！生徒の（多少うるさいくらいの）リアクションをうまく取り込んで授業を行っており、生徒が取り組んでいるという感じが伝わってきている。　（1年・化学）

先生と生徒の関係がすごくいいですね。生徒は声をかけられるのがとても嬉しそうでした。A君は、答えながらニコニコしていて、楽しんで参加している様子でした。授業全体を通して、和やかな雰囲気で、生徒は安心してその場にいるように感じました。だから安心して間違えられる。間違えてもまた、次に発言できるのでしょう。先生が「この直角三角形どう？」と聞いた時の、「ステキ」「かわいい」には笑いました。2年生ならではの大人の答えですよね。最後の方で答えた数学の苦手なBさん、合っていて喜んでそれが「そのタンジェントの$\sqrt{3}$は、マイナスをつけないの？」という質問につながりました。マイナスとマイナスでプラスになる難しいところ、Bさんが質問してくれて、他の生徒にとっても良かったですよね。　（2年・数学）

⑥ 丁寧な個別のアプローチ(少人数を活かして)

先生と生徒の１対１の個人面接で、読みのテストを実施していて、評価の観点が事前にプリントで生徒に提示されていたところがいいなあと思いました。　（２年・英語）

説明や作業中にもこまめに生徒間を回り、助言、指導を行っていた。適切な指示が入ることで、生徒は自分の作品が出来上がっていく楽しさを感じているようだった。（２年・情報）

「一人ひとりにテキストのリーディングをさせ、助言をする」という授業。他の生徒が気にならないように、廊下で一人ひとり行ったためか、しっかり読んでいて良かった。また、個別の課題に対して助言されている点も良かった。小集団ならではの授業展開で２分割が生かされていた。
（２年・英語）

⑦ 授業に向かう姿勢作り

携帯、化粧等を片付けさせる、着席の徹底等「授業を始める」雰囲気を作っていた点が良かった。最初に小テストを実施して、前回とのつながりや理解度を確認するとともに、授業を受ける集中力を高めていた点。生徒の学習意欲を高める声かけ。「これに気づいたら、ほぼ理解ができている」当、さりげない一言で生徒の顔が黒板にむかっていました。　（２年・生物）

「さあ始めるぞ集まれ」ザワザワして集合。出欠と注意、活動開始。「ちゃんとやれよ」「こっちこっち」・・・(生徒)「集合して指示を聞いて活動する」という基本姿勢ができていて良かった。生徒同士の学び合いにも継がっていて良かった。　（２年・体育）

⑧ 取り組みを促進させる工夫

プリントを用いて地図帳から都市などを調べる学習。何をするかとどうやるかが明確であったのが良かった。そのため生徒もよく取り組んでいた（一部除く）。机間巡視して質問を受けながら、取り組みを評価するという手法は、実技教科でよく使うが、調べ学習でも有効であると思った。一部の生徒は相談していましたね。今日の授業はたぶん一人ひとりの調べ学習であったようですが、グループでの調べ学習（やっているかもしれないが）もいいかなと思いました。　（１年・現社）

生徒が日頃、よく目にしたり利用するものを例にあげて反応させていました。教科書だけではできない授業に魅力を感じました。　（１年・現社）

生徒の行動１つ１つに丁寧に、そして臨機に対応しておられた。生徒もよく集中し、静かにしていました。１つ１つの指示が分かりやすかったです。
（１年・国語）

（３）総括

今回、授業見学を行った 10 名は、それぞれの授業から得るものがあり、見学したことを肯定的に捉えていることが見学メモから伺える。授業公開週間を設定したのは授業研究のために有効であったと思われる。しかし、今回の見学者が 10 名に留まったのは、やはり残念である。学力向上、生徒の学習意欲の向上を考える時に、お互いに授業を開き、どういう場面で生徒がよく学んでいるのか、どういう場面では学ぶことができないのかを検討することは欠かせない。次回はもっと参加者が増えるように、参加しやすい仕組みづくりをする必要があると思われる。

5　授業研究（協同的な学びを目指して）

（1）小グループによる授業の導入に至る経緯

本校では、1993年度から1，2年生で英数の小集団学習を展開している。本校の多くの生徒にとって、数学は苦手で嫌いな科目の1つであり、小学校で習得しているはずの九九、分数、小数の計算などの基本的な計算力、あるいは、数学的な思考力に課題を抱える生徒は少なくない。15人の少人数であっても、「分からない」と教師を呼ぶ生徒の声に追われ、一人一人のニーズに応じることは並大抵ではない。あるいは、数学の苦手な生徒の対応に追われていると、他の生徒に手をかけられずに、数学が得意な生徒のやる気を失わせることになることもある。そこで、生徒が互いに学び合うことを目指して、9月から一年生の数学の授業を小グループの形に変えることを試みた。仮説として次の4点を考えた。

① 友達と協同して学ぶことで、意欲が増すのではないか
② 分からないところを教師だけでなく友達が教えることで、理解が進むのではないか
③ 人に教えることで、教える生徒も理解が進むのではないか
④ 人とのコミュニケーションが苦手な生徒が、授業を通して、コミュニケーションの方法を学ぶことができるのではないか

（2）授業の実際と生徒の様子

グループは、15人の生徒を4つに分け、1グループ3人～4人で、男女の数がほぼ等しくなるようにしてくじ引きを行った。仲の良い生徒同士だと話ができるが、仲の良くない生徒とは殆ど話をしない生徒は少なくない。くじ引きでグループ分けをすることが、いろいろな人とのコミュニケーションの方法を学ぶことにつながり、生徒のコミュニケーション力を上げることにつながると考えたのである。授業の導入にあたって、生徒に、皆でより良く学ぶためのグループであることを説明し、グループ分けの方法について理解を求めた。

教室は、通常の小集団の教室ではなく、6角形の机が用意されている多目的教室を使うことにした。教室でグループ学習を行う際には、机をくっつけてグループを作るところから始まるが、多目的教室は、席につくとお互いに向かい合い、自然にグループを作ることができるようになっている。移動してくるのが面倒であると生徒は不平を言いながらも、普段とは様子が異なる教室の様子を楽しんでいたようである。

数学の授業では、基本的な事項を説明し、それを生徒が理解した後に、問題演習を行うのが通常の形であるが、グループでお互いに向き合う形を作ると、黒板に背を向ける形になる生徒も出てくる。通常のように黒板を使って説明をすることが多いと、グループの形は生徒にとっては不便な座り方になる。そこで、グループによる学習を試みる際に、なるべく黒板での説明が少なくなるように心掛けた。プリントを工夫し、教科書を読めば理解できる部分は教科書を読んで穴埋めしていく形とし、板書を少なくするとともに、説明の時間を短縮した。

グループ学習で個人作業を協同化することは、学力の底上げに有効であると言われている。数学の問題演習という個人作業において、分からない部分を周囲に聞いて、協同して取り組めればと思ったのである。しかし、最初9月に始めたときには、グループの形になっていても、生徒たちは、周りに聞くことはできず、圧倒的に「先生」、「先生」と声がかかった。分からない部分を友達にさらけだすことは難しく、分からない部分を聞くのは先生であるという従来の形から抜け出すことはたやすくなかったのである。その度に、「分からなかったら、まず周りの友達に聞いてみよう」と声をかけ、あるいは、「ここは○○君は分かっているよね。どういう風に考えたの？」と周りの友人と

つなげることを繰返した。

慣れるにしたがって、徐々にグループの中で聞くことができるようになり、周りの生徒と会話する生徒が増えていった。大人しくて、普段周りと殆ど会話をしない男子A君は、数学が得意であったが、グループの形になってから、周りの生徒に聞かれると丁寧に教えるようになった。また、一学期にはやる気が無くて、いつも後ろを向いてしゃべっていたB君は、グループになってから、周りと協力して取り組むようになり、教室をいい方向に向けて引っ張ってくれるようになった。担任による面談や、学年全体での指導など、他の要素もあるので断定はできないが、全く取り組まない生徒が少なくなっていったのは、グループ学習を取り入れたことが影響しているのではないかと感じている。

（3）公開授業と授業研究会

グループによる授業に慣れた11月、公開授業と授業研究会を行った。筆者が所属する校外の授業研究のグループである「高校まなびの広場」が主催する形であったが、校内にも案内をし、希望者が授業を参観し、研究会に参加できるようにした。

当日は、県外からの参観者を含む10名が来校し、忙しい時期にもかかわらず、校内の授業見学者も5名、研究会の参加者も2名あった。

授業は、1年生の小集団のクラスで、題材は2次関数の平方完成であった。生徒は参観者が多いことに戸惑いながらも、「分からない」と率直に発言し、グループの中で聞きあいながら問題に取り組んだ。

授業後の研究会で出た主な意見は次のようなものである。

① グループ学習の「ちから」を感じた。
② 一斉授業では「やった結果」だけ見るが，グループ学習では，友達がやっている「過程を見ている」ことに意味がある。
③ 数学が苦手な生徒たちが徐々に授業に入っていくのがよかった。
④ 最後の方になって教室の温度（生徒たちの集中度）がだんだん温まってくるのを感じた。課題の中身とその提示の仕方（だんだん難しくなる）がよかった。
⑤ 論理的思考をやりたくなる高校生時代に数学をやることは重要なこと。能力差を如何に生かすかが課題。差（違い）があるからこそできることを追求していくべきである。
⑥ 教師がグループに関わるときに、ポジションを工夫することで、グループ内の協同を促進することができる。

授業後に「高校まなびの広場」のメンバーから寄せられた感想を一部紹介する。

(A) 入ってきた生徒は、金子先生の言葉を借りると「ヤマンバ」「ガングロ」の女の子たちと数人の男の子たち。前回のプリントを浜崎先生から受け取るとそれぞれ席につきます。出席を取ると、スムースに授業が始まりました。

大勢の見学者やカメラがめずらしく、また見られていることを意識するのか、カメラに向かってポーズを取ったり、「ほら、お前今カメラに映ってるぞ」と言い合ったりします。カメラの私は小さくなりたいような気持ちでした。その一方で彼らが見られることや注目されることに慣れていないこと、（もしかしたらこれまで注目されたり、見られたりすることがなかった彼らなのかもしれない）意識しつつもそれがけっして嫌そうではない印象を受けました。検討会やビデオを拒否するのではなく、がんばってくれようとしていたように見えました。素直な、いい子たちだなと思いました。

授業の内容は、二次方程式のグラフを平行移動するための、式の平方完成の練習というわりにオーソドクスなものでした。プリントが配られ、浜崎先生から説明がなされ、グループでそれぞれ問題に取り組みます。

解いたあとは、互いに答えを見合って、わからないところを話したり教えあったりします。解けないときは浜崎先生が呼ばれ、あちこちのグループに出向いていきます。浜崎先生がにこやかに穏やかに、辛抱強く関わっていることが印象に残りました。

はじめ「ヤマンバだ」「ガングロだ」と思った生徒たちが、金髪をなびかせ、顔をしかめながら、「えーわかんない、どうしてできないわけ？」と隣の男の子に相談します。二人が相談しているところに、ほかの女の子が別のことを話しかけようとすると「うるさい、今真剣なんだよ」とはねのけられます。解けた男の子は嬉しそうに「よし！」とガッツポーズをします。

それは「底辺校」でも「生徒指導の大変な学校」でもなく、普通の思春期の生徒たちの様子に見えました。問題に取り組んで、わからないとくやしい、わかると嬉しい、どうしてそうなるのか知りたい・・という様子をみていて、「生徒たちは本当はわかりたいんだな」という言葉がここまで実感されたのは初めてでした。

授業後の検討会のとき、ある先生から「なぜ生徒は立ち歩かないのか」「なぜ隣の人のプリントを写してしまわないのか」という質問が出ていました。その中の浜崎先生の答えで、なぜグループにするのかということを一つ一つ生徒と話し合い説明して決めていった過程があったことが印象に残りました。ただ授業があるのではなく、生徒とのコミュニケーションと信頼関係があって、初めてあのような形が成り立っていたのだと思います。浜崎先生、本当におつかれさまでした。

(B)（生徒の名前は仮名です）

浜崎さんの授業のいちばんの特徴は教室の温度が徐々に上がっていって、終了間際に興味深い動きが見られるというところです。

たとえば6時間目の教室。窓側後ろの3人グループでは、森くんが、末次くんと桧山さんのやり取りに入れないでいる。しかし、彼の視線はたえず桧山さんのプリント上を動いているし、ふたりの会話に耳が傾けられている。消しゴムを持っていないらしい桧山さんは、末次くんのを借りて、書いては消し、消しては書くという試行錯誤を行っている。その桧山さんが、最後に森くんの消しゴムをさりげなくたぶん無意識に手を出して、使い出す。彼はその行動をもちろん承知しているのだけど、咎めることはないし、嫌がるふうでもない。桧山さんは、森くんのまなざしに気づいて、「あ、ごめん」という感じで消しゴムを彼の手元に戻すのだけど、この消しゴムたちの動きが浜崎さんのクラスを象徴しているように思えるのです。

授業の構造は至ってシンプル。最初から最後まで4人グループ。教科書を用いて内容を確認するプリント、そこで得た知識を活用して解くことのできる問題プリント、そして、既知だけでは解決のつかない水準の問いが最後に用意されている。

ですから、生徒は順にプリントに取り組むことによって、徐々にインタラクションを増やしていくというか、増やさざるを得ないような仕組みになっているわけです。それをささえているのが最初から4人で座ることになっている机。大きすぎもせず小さすぎもしないその机が4人に活動の平面を準備している。

通常なら、個人用の机をくっつけてグループを作るのだけど、（くっつけることがいかに難しいか）ここでは最初から形ができていて座るだけで共有のスペースが用意される。その平面上なら亀裂（机の隙間）や障壁（机上のカバン等）にさえぎられることなく安心して視線をあちこちに送ることができる

わけです。消しゴムもその平面上を動いている。末次くんの消しゴムが桧山さんの手に、そしたまた彼の元に。教室が熱を帯びはじめると森くんの消しゴムが桧山さんに。消しゴムは桧山さんが、いずれ、末次くんと森くんを媒介するだろうことを予測させます。

消しゴムは、いずれ、共有される知、ないし、協働して活用される知となるでしょう。おたがいの頭を使いあう互恵的reciprocalな学びを消しゴムは象徴している。磯山さんが提供してくれた望月高校での佐藤学さんのお話にあったように、桧山さんは「つなぐ女」なわけですね。

こうした動きが教室のあちこちで見られる。そして、浜崎さんの身体からは教室をコントロールしようという気配が全くなく、全てをグループに任せていて、それが信頼感を生徒に与えているように強く思いました。

もちろん浜崎さんのクラスが数学的な世界の探究という深みにまで降りているかというともちろん、そこまではいってない。しかし、さまざまな重いものを背負った子どもたちが協働の地平を切り拓いている姿にはこの社会の希望が託されているように思うのです。

（4）生徒の感想

後期の生徒の授業評価アンケートには、グループ学習について書いているいくつかの意見がみられる。肯定的な感想は

- グループは人に聞いたりしやすくて、いいと思う。
- 分からないところを聞けてよかった。
- 相談しあえるからいいと思う。
- グループ楽しいよ！
- 楽しい！チームワークが良い。
- この授業方針に賛成する。今までにない斬新なアイデアだと思う。

あまり肯定的でない感想は

- 人によって聞きやすい人とそうでもない人がいるので、ちょっとやりにくい。
- 仲良い人たちが同じグループだとうるさくなるし、知らない人たちと同じグループだと少し気まずいから、個人でやったほうがいいと思う。

のようなものであった。グループでもっと協同的に上手く学ぶことができれば、解消するようなものであろう。また、どっちでもいいという感想も複数あった。生徒は概ね、肯定的に受け止めていると考えられる。

（5）今後の課題

公開授業の際には、生徒がよくやっているところを見てもらうことができたが、いつも上手く行くわけではない。グループの構成メンバーによっては、協同することが難しい場合もあるし、課題の設定が易し過ぎて、おしゃべりに流れてしまうこともある。校内で協同的な学びを拡げていくには、「生徒が確かによく取り組む」ということが必要であると思う。せっかく生徒が落ち着き、授業に取り組んでノートを取るようになってきたのに、グループ学習でおしゃべりが増えてしまうようでは、先生方の理解は得られないであろう。どういう時に協同的に学ぶことができて、どういう時に学ぶことができないのかを検討していくことが必要である。

6　「基礎学力テスト」について

1．ねらい

生徒に合った適切な授業を行うために、入学時の生徒の学力状況を把握する。

背景：半数の生徒が筆記試験を受けない前期選抜で入学するため、どの程度の学力を備えているかが分からない。また、後期の学力検査も本校生の学力を測るには十分とはいえないので、基礎的な内容を中心に独自の問題で学力を測る必要がある。

2．時期と方式

時　期　：　4月

方　式　：　英・数・国について実施。

3．各教科の分析・コメント

英語

・選択肢が与えられている問題（1．人称代名詞、2．動詞の現在・過去・原形、6．進行形・完了形、能動態・受動態）については、分布が 60～80%に寄っているが、自分の裁量で解く問題（4．動詞の過去形、5．書き換え、7．並べ替え、8．長文）は分布が 20%、それ未満に寄っていて、文法の定着のない生徒が多いと言える。

・中学校の教科書もオーラル中心で、文法の基礎や例文が頭に残っていない生徒が多いのではないか。

・1年生では、繰り返しやることと、文法を教えることの2本立ての授業が必要であろう。

・また、語彙の定着とともに、例文を元に、単語の置き換えにより自分自身のことを表現する力を養う練習をしないと、学力の向上は進まないだろう。

数学

・方程式と計算の区別が付かない。

・計算問題には取り組むが、文章題や確率・思考力を問う問題を苦手としている。

・基本的な計算（足し算引き算）を間違える生徒が約 1/6 である。ただし、この2問の出来だけですべてを判断することはできない。

・得点の低い生徒の中には意欲にかけると言うだけでなく、計算したり、数学的に理解したりする能力が元々乏しい生徒がいると思われる。

・授業への取り組みはこの得点とは連動していないのが現実である。

国語

～分析～

・漢字について、特に読みについては生徒の学力格差が大きく、基礎的な漢字に対してもかなり修得度の低い者がいる。

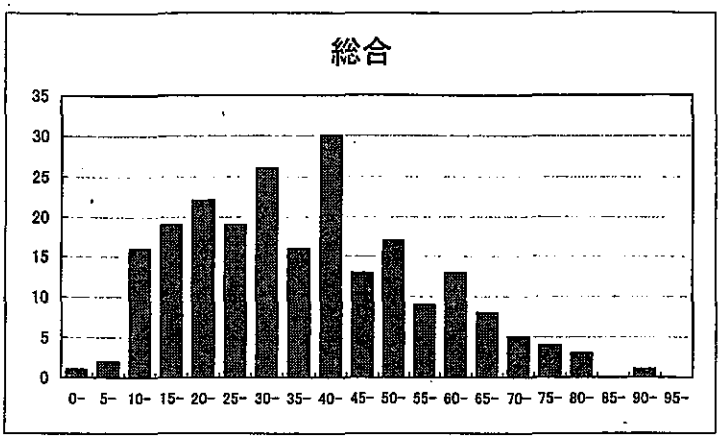
・ことわざに関しては、全体的に低学力であり、今後の学習の課題としなければならない。

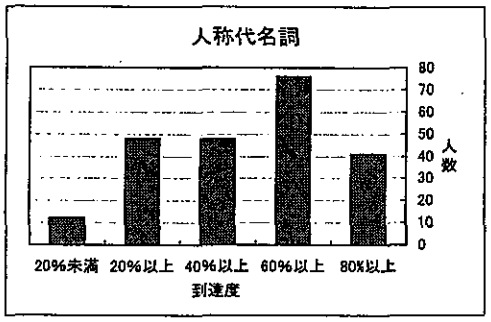
・文章題については、理解力の程度が平均化しているが、全体的には低い。今後、授業の展開に留意していかなければならない。

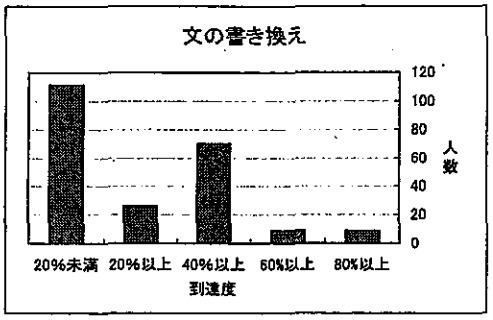
4．今後の課題

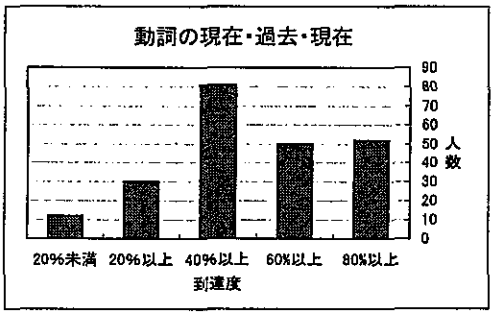
前期入試で入学してくる生徒も含めた基礎学力調査は、今年度がはじめての実施であった。入学生の基礎学力や学習上の課題を把握することができ、生徒に合った授業を組み立てていく上で大変参考になった。来年度以降も同一レベルの基礎学力試験を実施し、本校に入学してくる生徒の学力を継続的に把握分析することを通して、新しい学校づくり・授業づくりに生かしていくことが、今後の課題である。

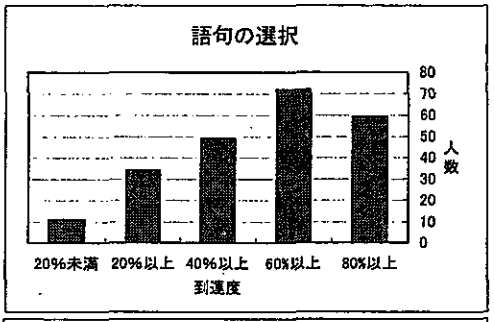
基礎学力テスト　英語

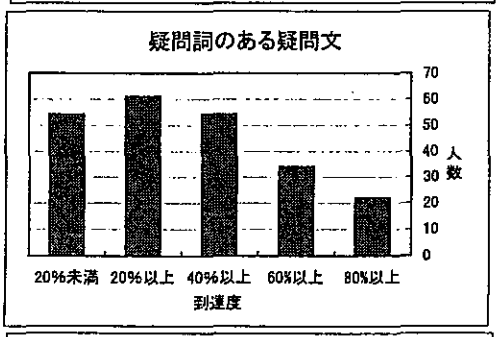

総合
35
30
25
20
15
10
5
0
0- 5- 10- 15- 20- 25- 30- 35- 40- 45- 50- 55- 60- 65- 70- 75- 80- 85- 90- 95-

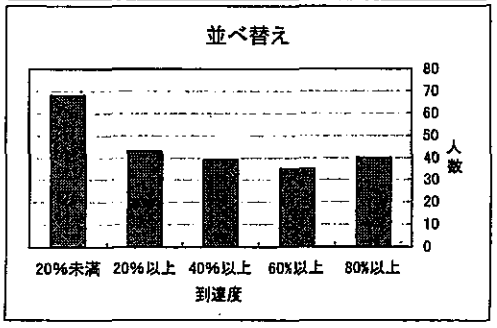

人称代名詞
80
70
60
50
40
30
20
10
0
人数
20%未満 20%以上 40%以上 60%以上 80%以上
到達度

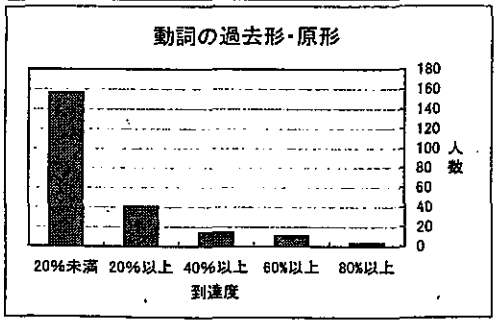

文の書き換え
120
100
80
60
40
20
0
人数
20%未満 20%以上 40%以上 60%以上 80%以上
到達度

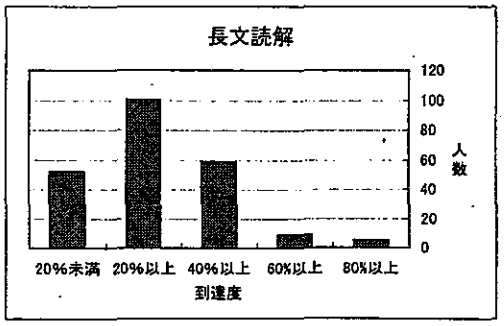

動詞の現在・過去・現在
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0
人数
20%未満 20%以上 40%以上 60%以上 80%以上
到達度


語句の選択
80
70
60
50
40
30
20
10
0
人数
20%未満 20%以上 40%以上 60%以上 80%以上
到達度

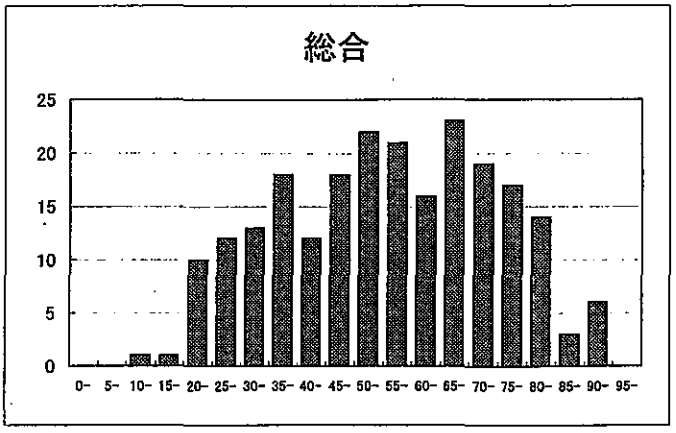

疑問詞のある疑問文
70
60
50
40
30
20
10
0
人数
20%未満 20%以上 40%以上 60%以上 80%以上
到達度

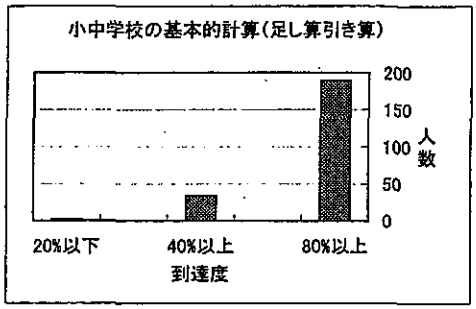

並べ替え
80
70
60
50
40
30
20
10
0
人数
20%未満 20%以上 40%以上 60%以上 80%以上
到達度

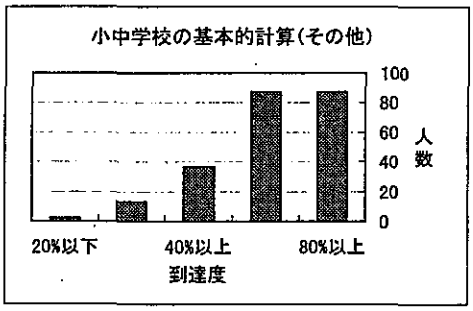

動詞の過去形・原形
180
160
140
120
100
80
60
40
20
0
人数
20%未満 20%以上 40%以上 60%以上 80%以上
到達度

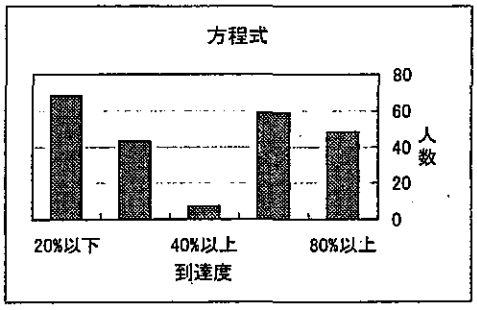

長文読解
120
100
80
60
40
20
0
人数
20%未満 20%以上 40%以上 60%以上 80%以上
到達度

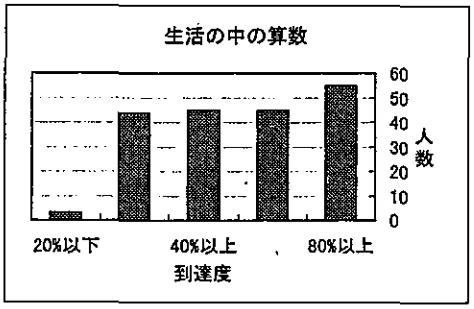
基礎学力テスト　数学

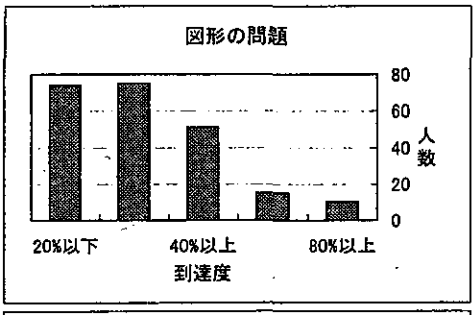

総合
25
20
15
10
5
0
0- 5- 10- 15- 20- 25- 30- 35- 40- 45- 50- 55- 60- 65- 70- 75- 80- 85- 90- 95-

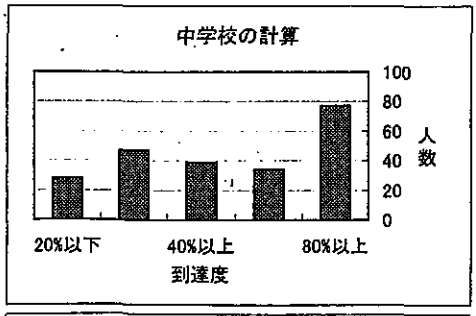

小中学校の基本的計算(足し算引き算)
200
150
100
50
0
人数
20%以下
40%以上
80%以上
到達度

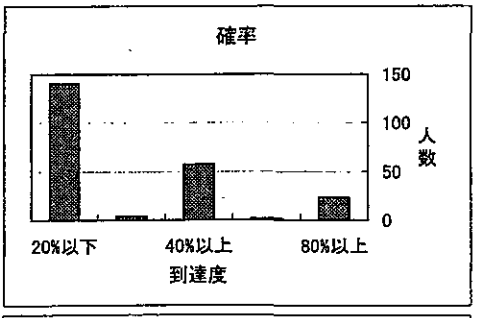

小中学校の基本的計算(その他)
100
80
60
40
20
0
人数
20%以下
40%以上
80%以上
到達度

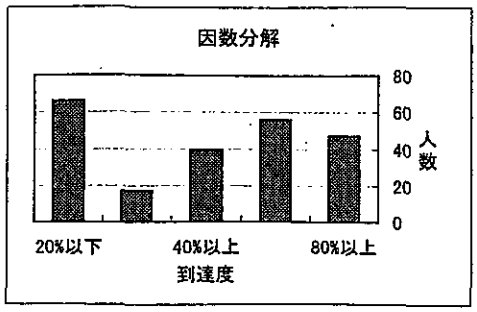

方程式
80
60
40
20
0
人数
20%以下
40%以上
80%以上
到達度

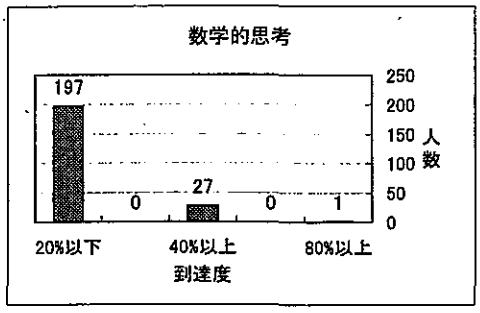

生活の中の算数
60
50
40
30
20
10
0
人数
20%以下
40%以上
80%以上
到達度


図形の問題
80
60
40
20
0
人数
20%以下
40%以上
80%以上
到達度

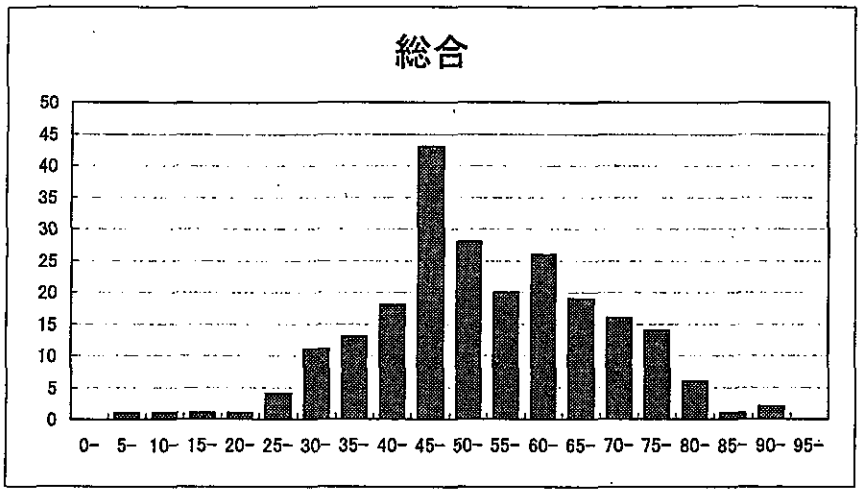

中学校の計算
100
80
60
40
20
0
人数
20%以下
40%以上
80%以上
到達度

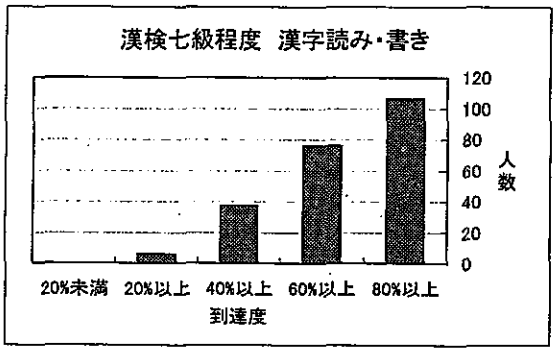

確率
150
100
50
0
人数
20%以下
40%以上
80%以上
到達度

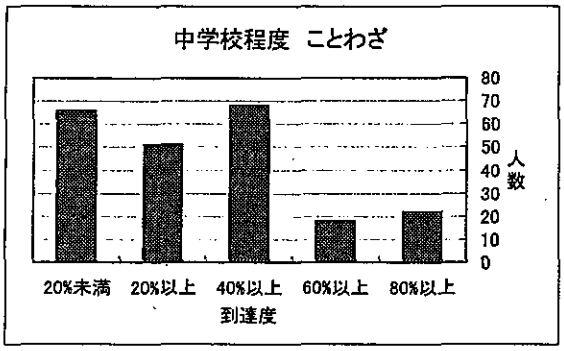

因数分解
80
60
40
20
0
人数
20%以下
40%以上
80%以上
到達度

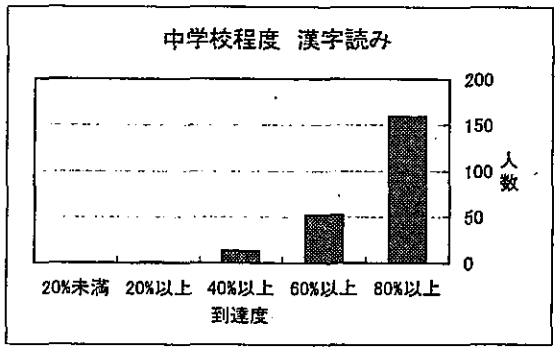

数学的思考
197
27
0
0
1
250
200
150
100
50
0
人数
20%以下
40%以上
80%以上
到達度

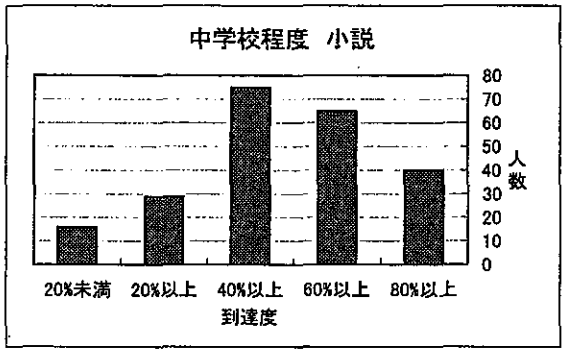
基礎学力テスト　国語

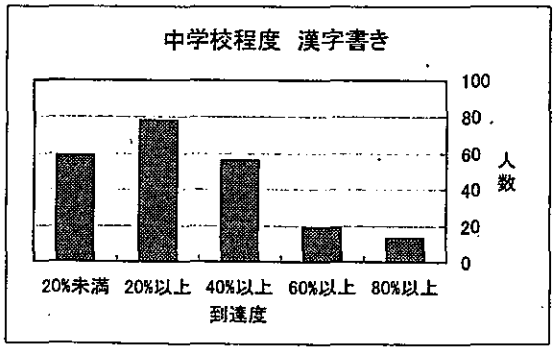

総合
50
45
40
35
30
25
20
15
10
5
0
0- 5- 10- 15- 20- 25- 30- 35- 40- 45- 50- 55- 60- 65- 70- 75- 80- 85- 90- 95-

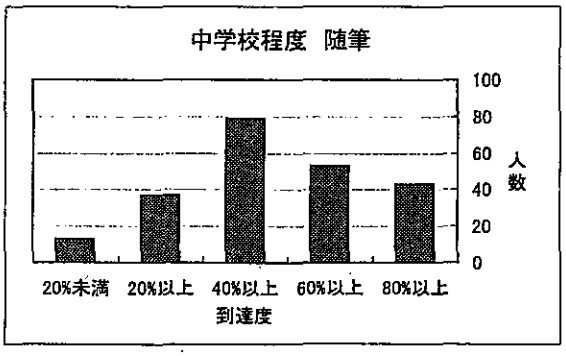

漢検七級程度　漢字読み・書き
120
100
80
60
40
20
0
人数
20%未満 20%以上 40%以上 60%以上 80%以上
到達度


中学校程度　ことわざ
80
70
60
50
40
30
20
10
0
人数
20%未満 20%以上 40%以上 60%以上 80%以上
到達度


中学校程度　漢字読み
200
150
100
50
0
人数
20%未満 20%以上 40%以上 60%以上 80%以上
到達度


中学校程度　小説
80
70
60
50
40
30
20
10
0
人数
20%未満 20%以上 40%以上 60%以上 80%以上
到達度


中学校程度　漢字書き
100
80
60
40
20
0
人数
20%未満 20%以上 40%以上 60%以上 80%以上
到達度


中学校程度　随筆
100
80
60
40
20
0
人数
20%未満 20%以上 40%以上 60%以上 80%以上
到達度

7　「生徒による授業評価アンケート」のまとめ

1．アンケート実施の時期と方式

時期：7月、１２月

方式：全科目（「総合」は「総合A」）について、各授業で実施。選択番号記入方式。

昨年度、質問項目によって解答の仕方が異なったのを、今年度は全ての項目について「1．そうである」「2．ほぼそうである」「3．あまりそうでない」「4．全くそうでない」で解答できるよう質問の仕方を変えた。これにより、データをより明瞭に把握することができるようなった。

2．授業改善の取り組み

9月　　：アンケート集計結果を各教科で分析し、課題の把握と改善策を検討した。

１０月～１１月：各教科、・個人で授業方法や内容の工夫に取り組んだ。

１２月～　2月：２回のアンケートを、また昨年度のそれとも比較・分析し、来年度の授業への課題と取り組みの検討を行った。また、「授業見学週間」を設け、各自が他教科も含めた授業見学、研究を行った。

反省点として、7月のアンケートの集計・分析が9月以降にまで遅れてしまい、すぐに１２月のアンケート実施となってしまった感がある。そのため、前期の分析を受けての授業改善という意味では十分な期間を設けることが出来なかった。

また「授業見学週間」について、実施時期が多忙であり、また期間も短かったことから、なかなか授業見学へ行く時間がとれなかったとの声もあった。

3．総括

・各教科のアンケート結果と総括は別紙資料

・教科毎に違いはあるものの、全体としては、昨年度との比較では授業に向かう姿勢が改善傾向にあるようである。

・前後期の比較の中で、後期は明らかに学習内容が難しくなってきているにも関わらず、生徒の理解度に大きなマイナスが見られない、ばかりかプラスが見られる。年間を通し、生徒の興味・関心をひくような教材の選択、提示をしたり、授業の内容・方法を工夫するなどの取り組みに一定の成果があったことがアンケートにあらわれている。

・年間を通して、生徒の学力の差が大きくなっているのではという指摘もあった。

・前期に比べ、後期のアンケート回収率が低くなったとの声があった。これにより、データに幾分かの偏りがあらわれている可能性も考えられる。

4．今後の課題

ここ数年間の教員の取り組みが、概ね生徒にも肯定的に伝わっているようである。ただ、生徒の学力の差が大きくなっているという課題に対し、より伸ばす指導と、細やかにケアする指導との両側面について指導法を検討していく必要性があるだろう。

また、今後の入試制度の変化に伴って考えられる生徒の変化についても十分意識して、早め早めの対策、授業改善をしていくことが求められるのではないか。

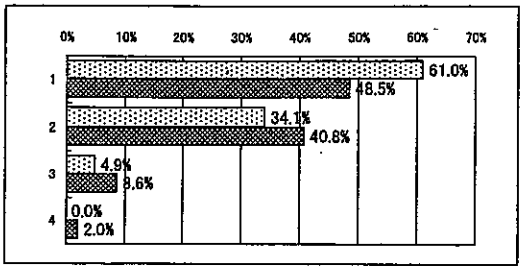
さらに、より確実なデータを収集するために、アンケートの回収率を高めていく努力も必要であると考える。

国語科

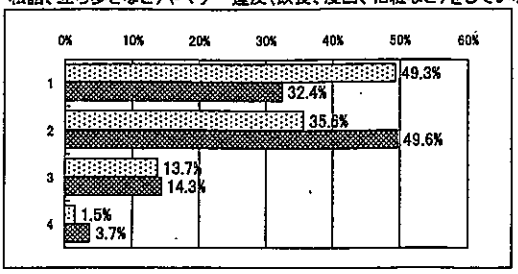
凡例：7月　12月

解答：1. そうである　2. ほぼそうである　3. あまりそうでない　4. 全くそうでない

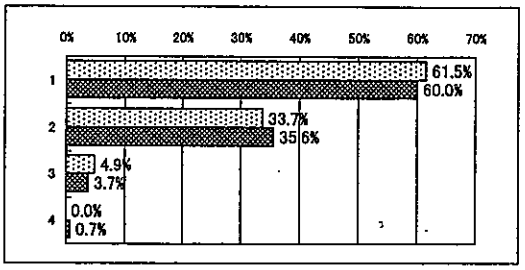
Q1 あなたは授業にきちんと参加し、指示された学習を行っている。



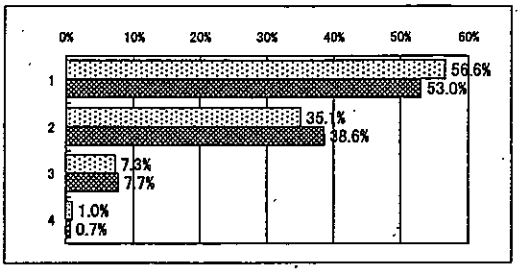
Q2 あなたは授業中に授業の妨げとなる行い（携帯電話、携帯音楽プレーヤー、私語、立ち歩きなど）やマナー違反（飲食、漫画、化粧など）をしていない。



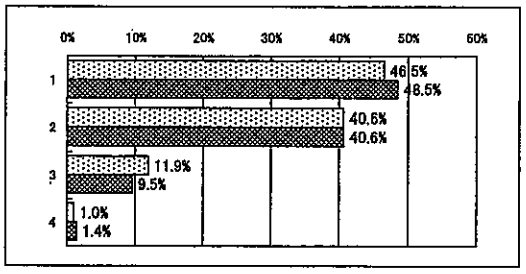
Q3 先生は授業のために十分な準備をしていると思う。



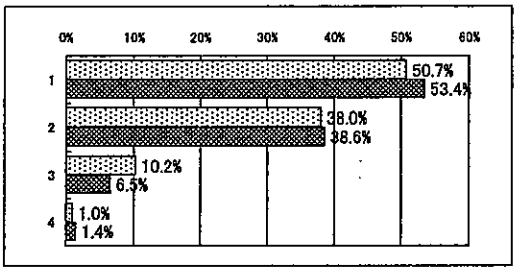
Q4 授業の進度、進め方は適切である。



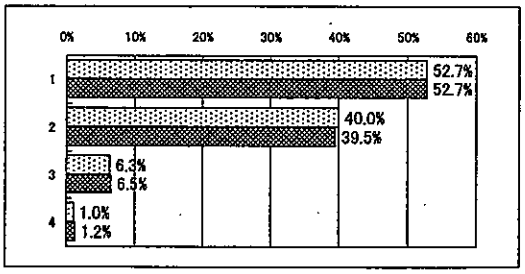
Q5 「わかる」「できる」が感じられる授業である。



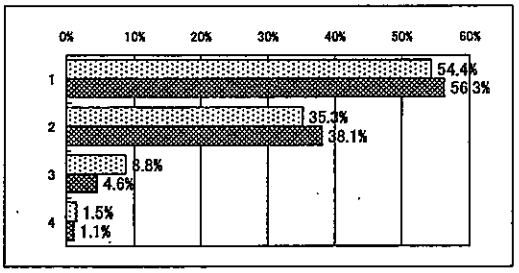
Q6 授業の中に自分で考えて学習したり活動したりする時間がある。



Q7 先生の説明や授業中の指示はわかりやすい。



Q8 先生は生徒の発言を大切にして授業に活かそうとしている。



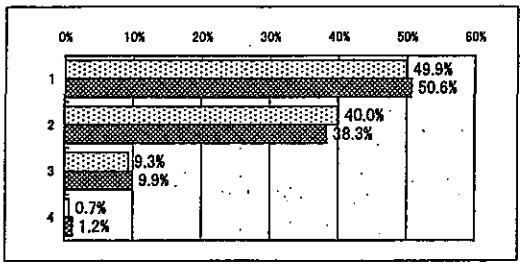
昨年度との比較・分析	○データを見る限り、全体として、生徒の授業への取り組み意識が若干ながら向上しているのがわかる。十分な分析なしに即断はできないが生徒の質の変化が認められるといえようか。授業の受け止め方についても肯定的な回答が増えている。この傾向を維持すべく授業展開の工夫がさらに求められるといえる。
前期/後期の比較・分析	○あなたは、授業にきちんと参加し、指示された学習を行っているか。の項目が前期より下回ったのは、残念である。さらに授業中に携帯電話などを使用し授業に参加していない割合が増加している。その原因を国語科として真摯に受けとめ、授業に際してさらに生徒の授業参加を促す努力が必要と思われる。 ○先生は授業のために十分な準備をしていると思う。は前期とほぼ同様の結果となった。授業の進度は適切であるについては、割合が少々下がったが、授業の内容が難しくなったことにも原因が在ると思う。ただ、「わかる」「できる」が感じられる授業である。の項目ではその割合が増えていることを考えると、生徒の学力に差が出てきていることが伺える。その学力の差を考えながら授業を組み立てる必要があるように思う。先生の説明や授業中の指示はわかりやすい。の項目が前期より少し下がったのは、先生は生徒の発言を大切にして授業に活かそうとしている。の項目が前期と変わらない割合であることから、低学力の生徒に対して難易度の高いものを要求したためと思われる。
その他気付いた点、課題等	○生徒の学力の差が大きくなって来ている状態が今回のアンケートではっきりとしたように思う。 ＜今後の課題＞ この傾向をしっかりと理解し、今後の授業を工夫し学力の差が縮まるように努力しなければならないと思う。

社会科

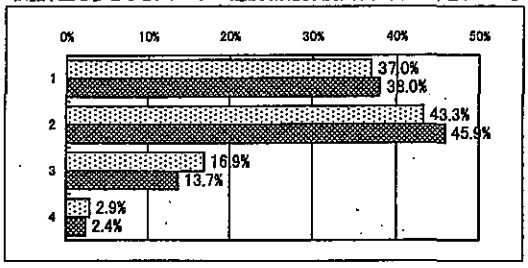
凡例: ▒ 7月 ▩ 12月

解答: 1. そうである
2. ほぼそうである
3. あまりそうでない
4. 全くそうでない

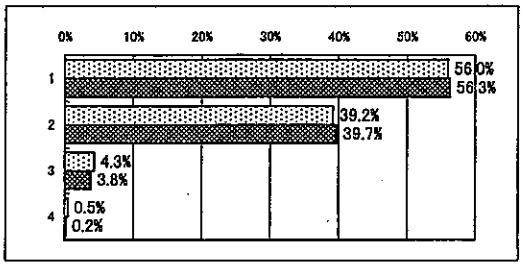
Q1 あなたは授業にきちんと参加し、指示された学習を行っている。



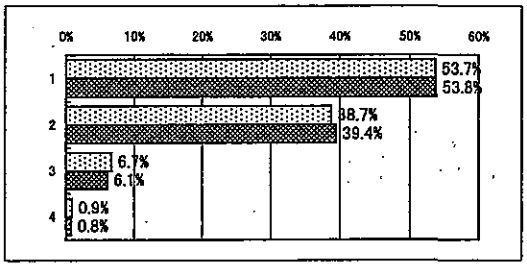
Q2 あなたは授業中に授業の妨げとなる行い(携帯電話、携帯音楽プレーヤー、私語、立ち歩きなど)やマナー違反(飲食、漫画、化粧など)をしていない。



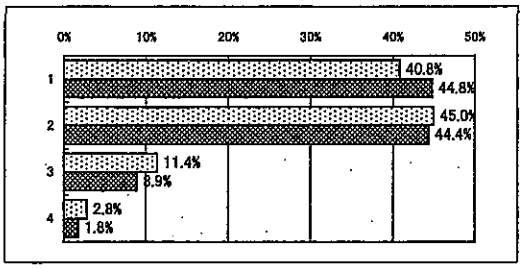
Q3 先生は授業のために十分な準備をしていると思う。



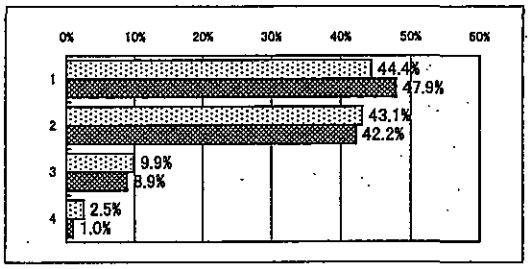
Q4 授業の進度、進め方は適切である。



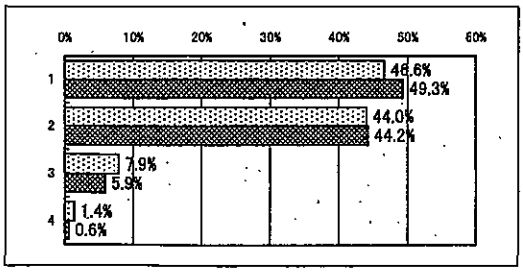
Q5 「わかる」「できる」が感じられる授業である。



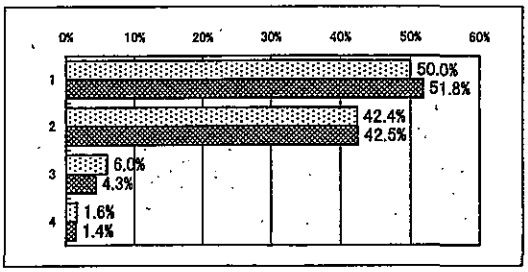
Q6 授業の中に自分で考えて学習したり活動したりする時間がある。



Q7 先生の説明や授業中の指示はわかりやすい。



Q8 先生は生徒の発言を大切にして授業に活かそうとしている。



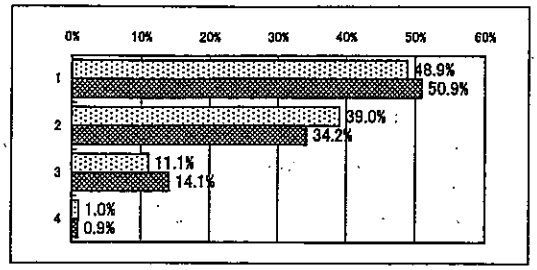
昨年度との比較・分析	○昨年度との比較では、大きな変化はなく安定しているといえる。授業に関心を持つ生徒が増えたこともあり、授業の成立度がアップしたためだと考えられる。
前期/後期の比較・分析	○前期との比較では、すべての項目で、「そうである」の方向に回答が微増している。授業の満足度は上がっていると考えている。
その他気付いた点、課題等	<今後の課題> ○さらに「わかる授業」への取り組みと共に、「質の高い授業」を目指していきたい。

数学科

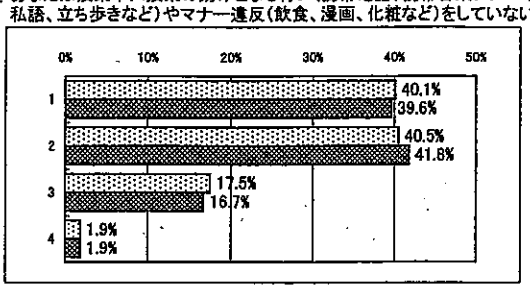
凡例：□ 7月　▩ 12月

解答：1. そうである
2. ほぼそうである
3. あまりそうでない
4. 全くそうでない

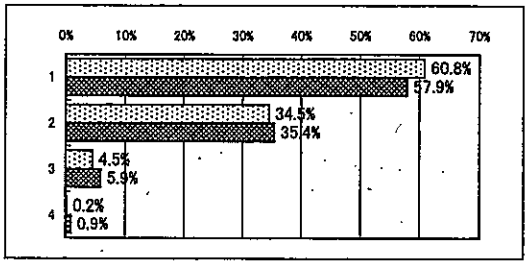
Q1 あなたは授業にきちんと参加し、指示された学習を行っている。



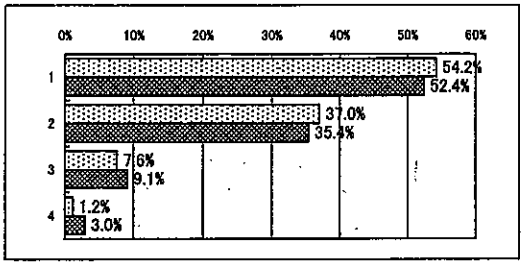
Q2 あなたは授業中に授業の妨げとなる行い（携帯電話、携帯音楽プレーヤー、私語、立ち歩きなど）やマナー違反（飲食、漫画、化粧など）をしていない。



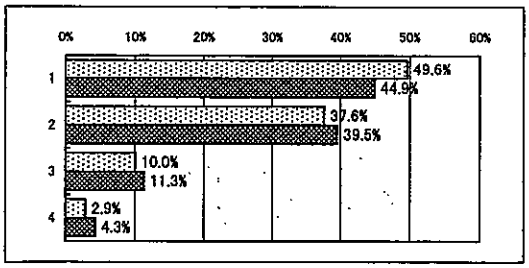
Q3 先生は授業のために十分な準備をしていると思う。



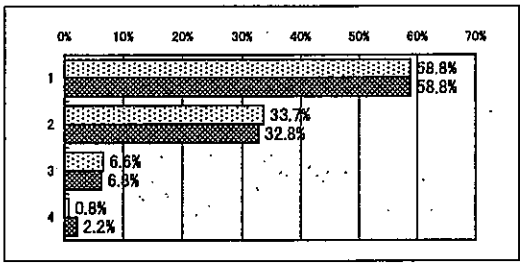
Q4 授業の進度、進め方は適切である。



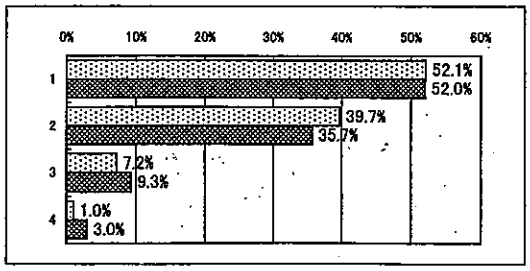
Q5 「わかる」「できる」が感じられる授業である。



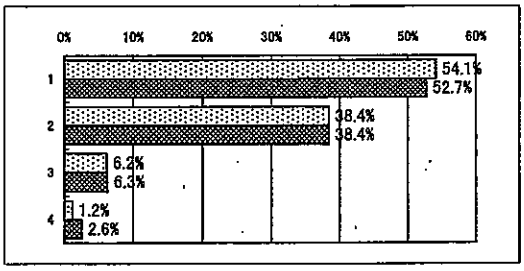
Q6 授業の中に自分で考えて学習したり活動したりする時間がある。



Q7 先生の説明や授業中の指示はわかりやすい。



Q8 先生は生徒の発言を大切にして授業に活かそうとしている。



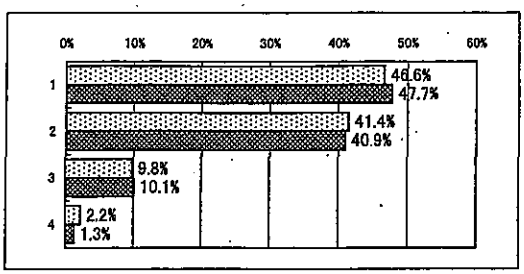
昨年度との比較・分析	○昨年と比較して、授業に向く生徒が増えてきている。それは昨年度の学年の生徒との違いもあるのではないか。
前期/後期の比較・分析	○7月の結果と比較して、「わかるできるが感じられる授業である」の項目が12月に下がっているのは、高校の内容に入り、難しくなったからであろう。
その他気付いた点、課題等	○いい評価が多いのは、授業の進め方を概ね肯定的に受け止めているからではないか。 ○調査への慣れがあるのか、すべてに1をつける生徒も少なくない。授業評価アンケートを真面目に受け止めていない可能性もある。 ＜今後の課題＞ ○授業を成立させるために、ノートをとらせることが多かったが、授業に向く生徒が増えてきたので、ノートを写すだけではなく、生徒の力を伸ばす授業展開を検討していく必要がある。

理科

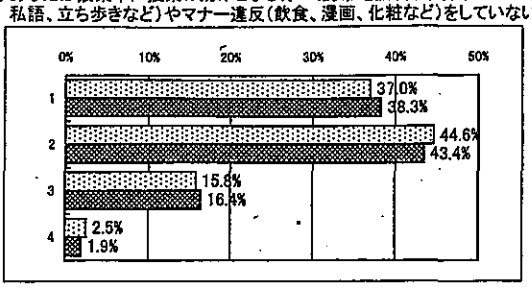
凡例: □ 7月　▩ 12月

解答: 1. そうである
2. ほぼそうである
3. あまりそうでない
4. 全くそうでない

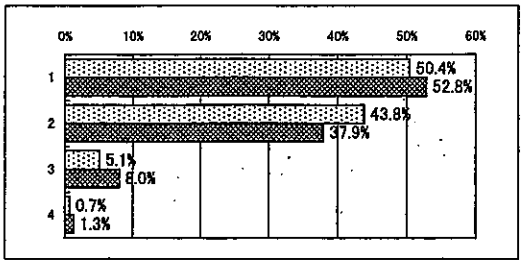
Q1 あなたは授業にきちんと参加し、指示された学習を行っている。



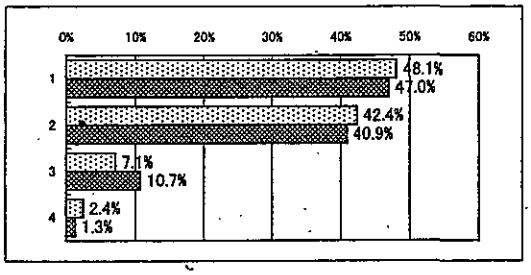
Q2 あなたは授業中に授業の妨げとなる行い(携帯電話、携帯音楽プレーヤー、私語、立ち歩きなど)やマナー違反(飲食、漫画、化粧など)をしていない。



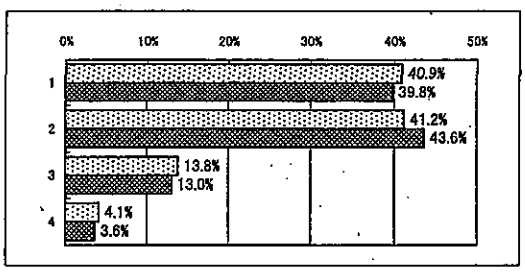
Q3 先生は授業のために十分な準備をしていると思う。



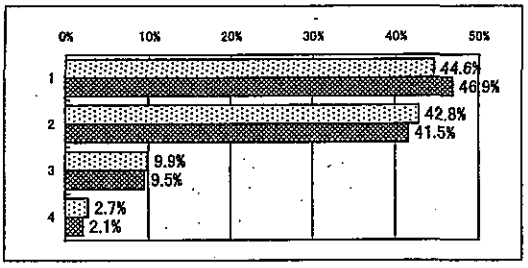
Q4 授業の進度、進め方は適切である。



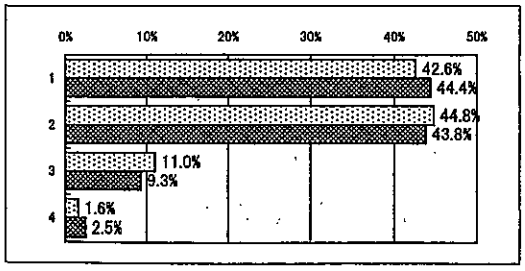
Q5 「わかる」「できる」が感じられる授業である。



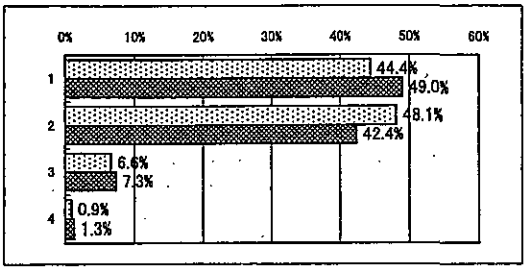
Q6 授業の中に自分で考えて学習したり活動したりする時間がある。



Q7 先生の説明や授業中の指示はわかりやすい。



Q8 先生は生徒の発言を大切にして授業に活かそうとしている。



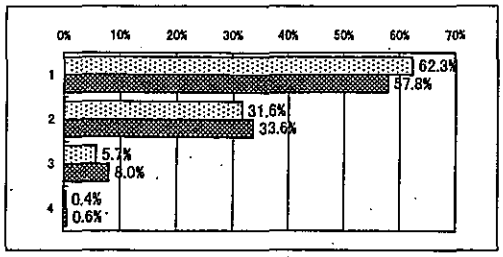
昨年度との比較・分析	○全体的な傾向としては大きな変化はない。昨年に比べると 「わかる」・「できる」が感じられる授業である が10%近くアップしている。
前期/後期の比較・分析	○前後期でも 「わかる」・「できる」が感じられる授業である は、ほぼ同数値となったが、学習内容が明らかに難しくなってきていることを考慮すると、ここ一年の授業の工夫の効果が出ていると判断できる。 ○しかし、 授業の進度、進め方は適切である 「わかる」・「できる」が感じられる授業である 先生の説明や授業中の指示はわかりやすい といった項目で、③、④を選択している生徒が依然として15%前後いることについて、さらなる工夫、対応が必要であろう。 ○また、一年を通して3年生の授業態度の悪さが複数の科目から指摘された。
その他気付いた点、課題等	＜今後の課題＞ ○今後、しっかりとした授業マナーの徹底、理解できずにいる生徒への丁寧な対応が必要であろう。 ○また、理科を学ぶ上で、例えば計算を苦手としている生徒等に対し、教科内、または他教科との関連の中でのケアが必要である。

保健体育科

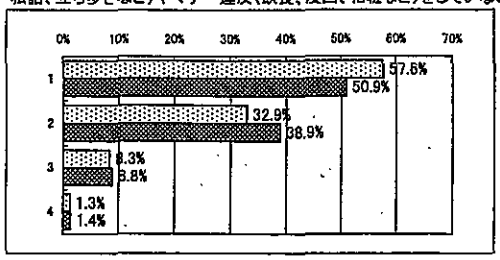
凡例: ▒ 7月 ▩ 12月

解答: 1. そうである
2. ほぼそうである
3. あまりそうでない
4. 全くそうでない

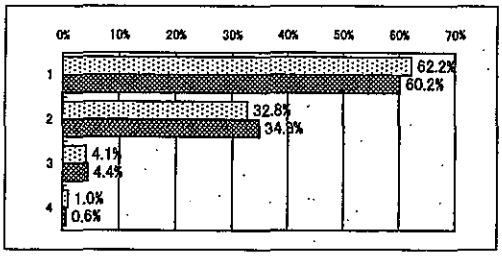
Q1 あなたは授業にきちんと参加し、指示された学習を行っている。



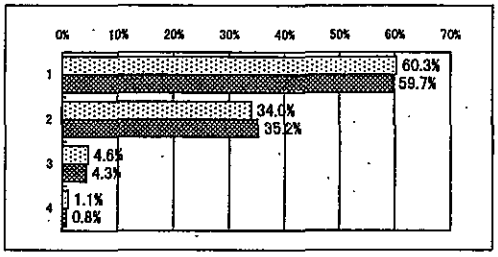
Q2 あなたは授業中に授業の妨げとなる行い(携帯電話、携帯音楽プレーヤー、私語、立ち歩きなど)やマナー違反(飲食、漫画、化粧など)をしていない。



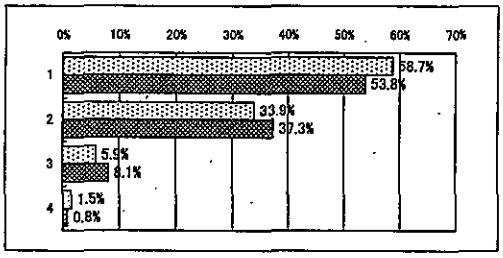
Q3 先生は授業のために十分な準備をしていると思う。



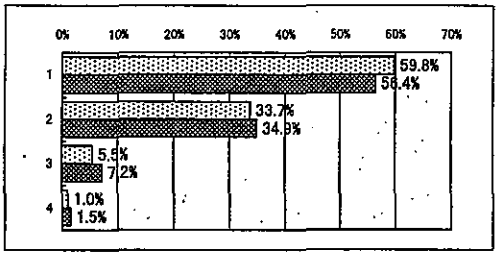
Q4 授業の進度、進め方は適切である。



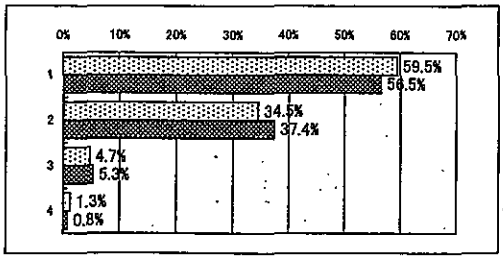
Q5 「わかる」「できる」が感じられる授業である。



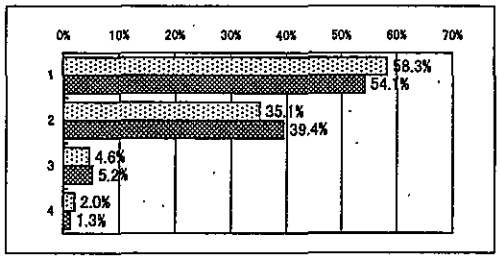
Q6 授業の中に自分で考えて学習したり活動したりする時間がある。



Q7 先生の説明や授業中の指示はわかりやすい。



Q8 先生は生徒の発言を大切にして授業に活かそうとしている。



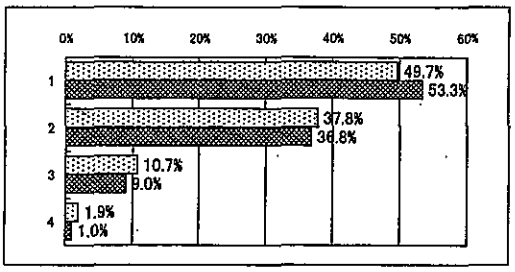
	保健	体育
昨年度との比較・分析	○ 昨年度に比べて、前後期ともに肯定的なポイントが増えている。理由として、全体的に、体操服に着替え、活動を主体的に行う生徒が増え、授業・クラスの雰囲気も良くなっていることが生徒を楽しく前向きにさせていると思われる。	
前期/後期の比較・分析	○立ち歩き、私語など他の生徒の妨害になる行為に対しての注意や指導に多くの時間をさかれるため、携帯電話など細かな注意が減りがちになった。(特に後半) ○1・2年ともに、「わかる・できる」のポイントが下がっており、授業の内容どころではない生徒と、ペースをあげて学びたいと思っている生徒との各差が大きくなり、教員側が対応しきれなかった感がある。	○特に2年生が、後期にかけて授業評価も肯定的に捉えられ、積極的な様子がうかがえた。 ○全学年を通して、まったく活動していないと答えた生徒の割合が減っており、地道な指導の成果がでているのではないか。
その他気付いた点、課題等	<今後の課題> ○授業を聞きたがっている生徒への配慮を最大限に考慮し、対策を練って対応していくべきだと痛感された。悪いことを注意することを忘れてはならないが、積極的に充実した授業を進めることに重きをおいて授業をする意識も今後は必要になってきている。 ○科目の特性として、「わかる・できる」を捉えやすい内容ではないかもしれないが、より生徒の興味付けが進むような教材準備の必要性を感じる。	○体を動かすことが好きな生徒が多く、「体育」は生徒に好評である。 <今後の課題> ○1年生について、年間を通して、学校生活に慣れるに従って、指示される活動や約束事への取り組みが緩慢になった傾向がある。教員の側も、年度当初よりも、慣れによる授業中の注意・指示の徹底不足があり、反省するところである。

芸術科

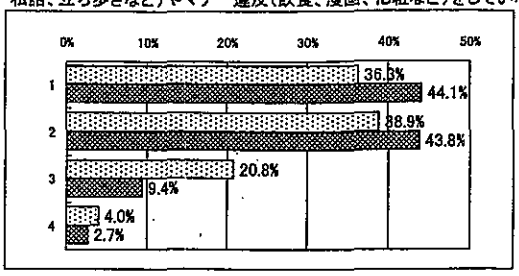
凡例：7月　12月

解答：1. そうである　2. ほぼそうである　3. あまりそうでない　4. 全くそうでない

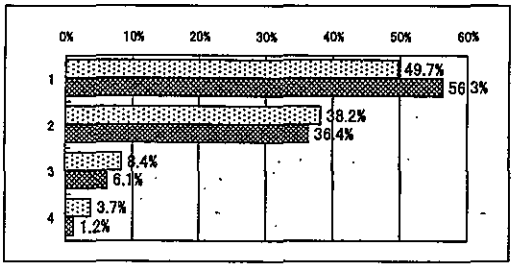
Q1 あなたは授業にきちんと参加し、指示された学習を行っている。



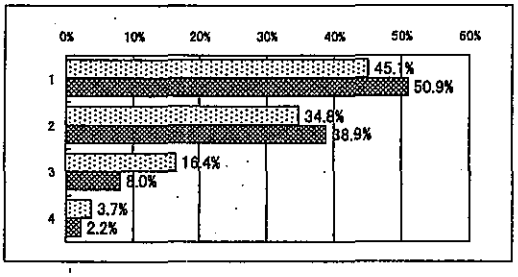
Q2 あなたは授業中に授業の妨げとなる行い（携帯電話、携帯音楽プレーヤー、私語、立ち歩きなど）やマナー違反（飲食、漫画、化粧など）をしていない。



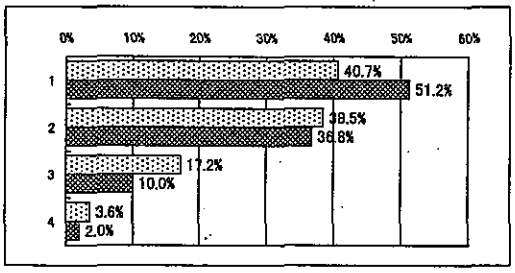
Q3 先生は授業のために十分な準備をしていると思う。



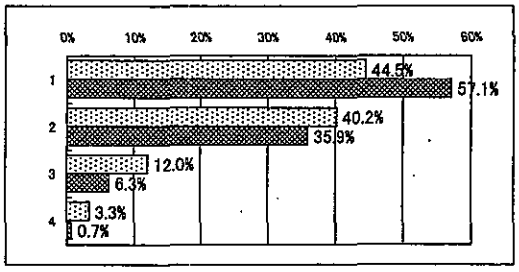
Q4 授業の進度、進め方は適切である。



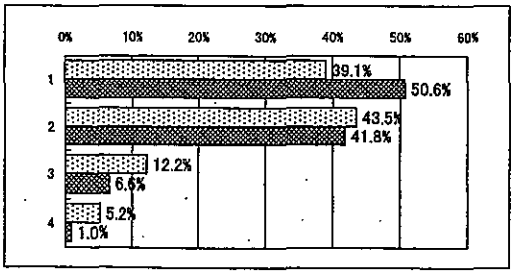
Q5「わかる」「できる」が感じられる授業である。



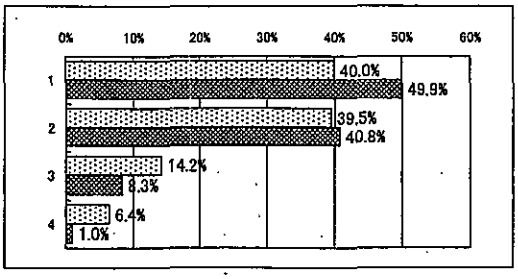
Q6 授業の中に自分で考えて学習したり活動したりする時間がある。



Q7 先生の説明や授業中の指示はわかりやすい。



Q8 先生は生徒の発言を大切にして授業に活かそうとしている。



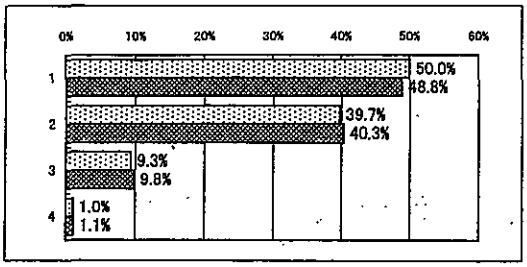
昨年度との比較・分析	○昨年度は板書の工夫などわかり易い授業を目指し一定の成果は上げたとは思うが、反面　自分から考えようとしないという反省があった。今年は後半に創作を多めに取り入れ、自ら活動したり・考えさせる授業を目標とした。このことにもついてこようとする生徒が増加したように感じる。
前期/後期の比較・分析	○6，7の項目（考えた活動・指示のわかりやすさ）は、前期より肯定的な結果となっている。授業内容として、前期は基礎、後期は各自の活動・創作中心となっているためであろう。
その他気付いた点、課題等	○1，2の項目（授業への参加意識）は、生徒としてはしっかり参加していると思っているようだが、指導者側の感じ方とはズレがあるようだ。 ○質問項目には芸術科に適さないものもある。また、生徒によっては、すべて1とか4とかで考えてつけているとは思われないものもあるので、質問項目の見直しを考えていただきたい。（生徒の記述式も含めるなど）

英語科

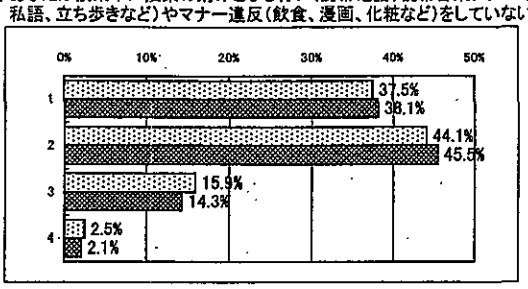
凡例: 7月 / 12月

解答: 1. そうである / 2. ほぼそうである / 3. あまりそうでない / 4. 全くそうでない

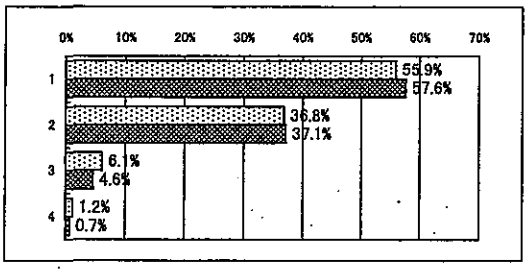
Q1 あなたは授業にきちんと参加し、指示された学習を行っている。



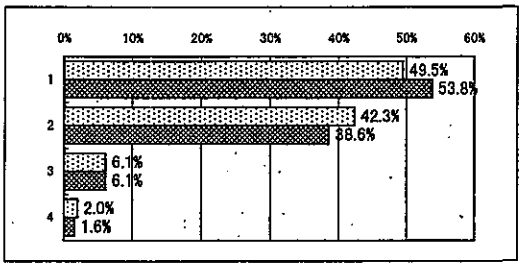
Q2 あなたは授業中に授業の妨げとなる行い(携帯電話、携帯音楽プレーヤー、私語、立ち歩きなど)やマナー違反(飲食、漫画、化粧など)をしていない。



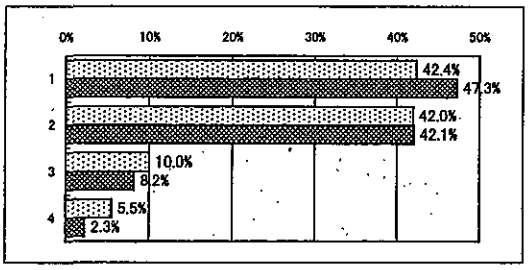
Q3 先生は授業のために十分な準備をしていると思う。



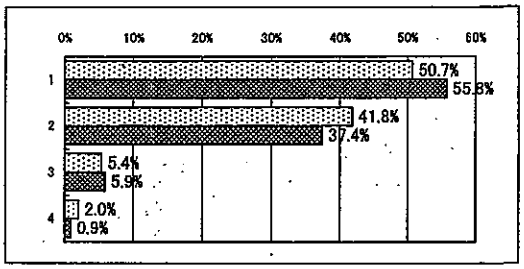
Q4 授業の進度、進め方は適切である。



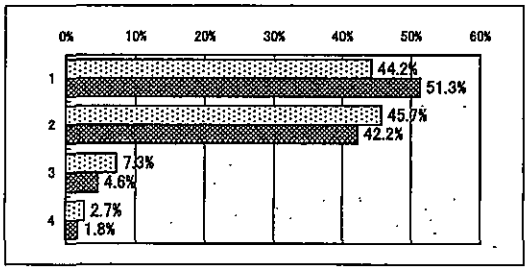
Q5 「わかる」「できる」が感じられる授業である。



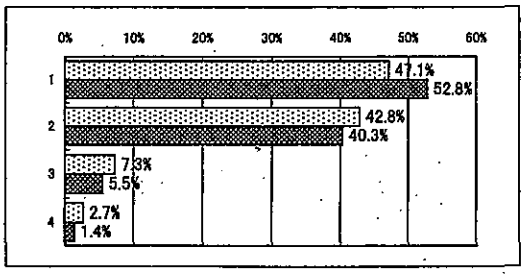
Q6 授業の中に自分で考えて学習したり活動したりする時間がある。



Q7 先生の説明や授業中の指示はわかりやすい。



Q8 先生は生徒の発言を大切にして授業に活かそうとしている。



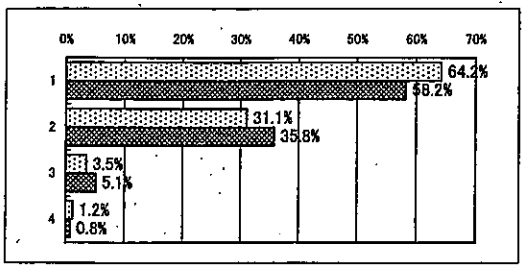
昨年度との比較・分析	○全体的な傾向としては、昨年度と大きな違いはなかった。
前期/後期の比較・分析	○前期集計と後期集計とはほぼ同じ傾向であったが、全般的に「1」の評価が増えている。これはそれぞれの科目で授業担当者のやり方に生徒が慣れてきたというのが大きな要因ではないかと考えられる。また授業評価アンケートの回収数が30程度減っていることも影響しているだろう。
その他気付いた点、課題等	○生徒の取り組み姿勢については生徒側の認識と教員側の認識にずれがあるように思われる。

家庭科

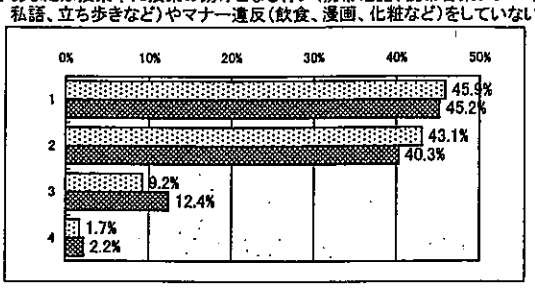
凡例：7月　12月

解答：1. そうである　2. ほぼそうである　3. あまりそうでない　4. 全くそうでない

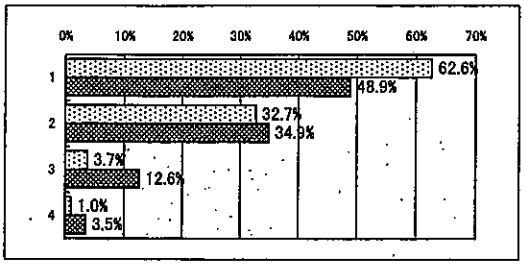
Q1 あなたは授業にきちんと参加し、指示された学習を行っている。



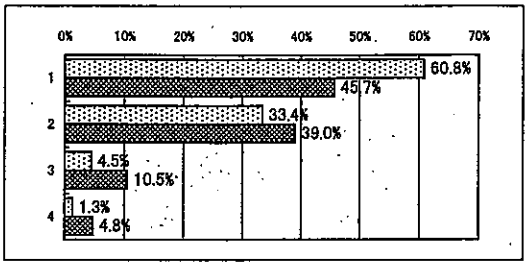
Q2 あなたは授業中に授業の妨げとなる行い（携帯電話、携帯音楽プレーヤー、私語、立ち歩きなど）やマナー違反（飲食、漫画、化粧など）をしていない。



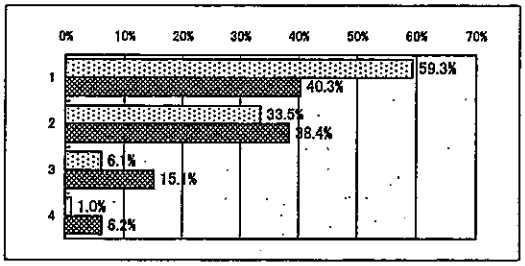
Q3 先生は授業のために十分な準備をしていると思う。



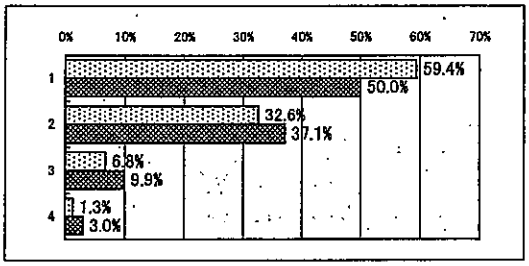
Q4 授業の進度、進め方は適切である。



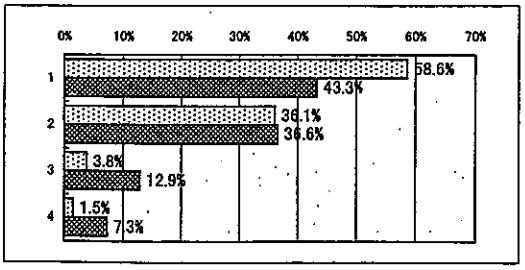
Q5 「わかる」「できる」が感じられる授業である。



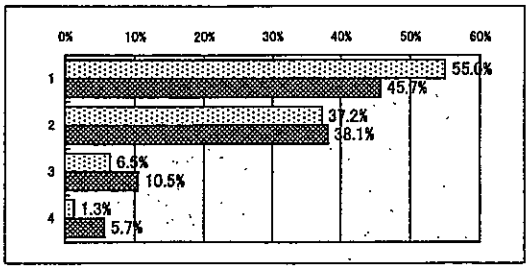
Q6 授業の中に自分で考えて学習したり活動したりする時間がある。



Q7 先生の説明や授業中の指示はわかりやすい。



Q8 先生は生徒の発言を大切にして授業に活かそうとしている。



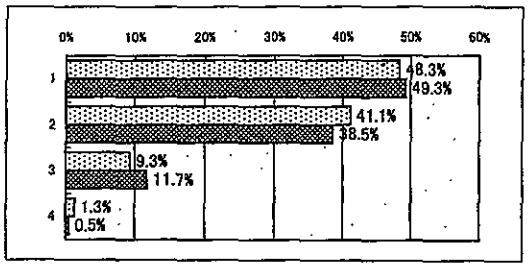
昨年度との比較・分析	○昨年と比較して、「授業にきちんと参加し指示された学習を行っている」と応えた生徒が増えている。特に2年生はクラスの人数も増え授業としては取り組みにくいはずだが、TTが実現したことによって何をすればよいのかわからない生徒へ個別に対応することが出来るようになり、結果として指示された学習活動ができるようになったと思われる。
前期/後期の比較・分析	○前期の方が、「わかる」「できる」を感じている生徒が多かった。これはアンケートをとった時期が前期は全学年とも実習中で取り組みがとてもよい時期だったのに対し、後期は座学が中心で生徒も中だるみのようになっている状況があり、その結果として理解がしにくかったのではないかと思われる。また、教員が途中で変わった事により生徒の中には少なからず混乱がみられた。
その他気付いた点、課題等	＜今後の課題＞ ○学習チェックをうまく組み込めたクラスとそうでないクラスがあったが、実施したクラスではよい反応がみられた。座学の2時間は生徒にとってその日の学習のポイントがわかりにくくなる為、できるだけ学習チェックを取り入れるようにしていきたい。 ○携帯やゲーム等は注意はするが、徹底することまではできなかった。また休み時間から授業への切り替えが苦手な生徒が多く、それらに夢中になることで授業がわからなくなったりつまらなくなったりということもあるので、授業の導入で意識をこちらに向ける工夫をしつつ、やめさせる方法を考えたい。

情報科

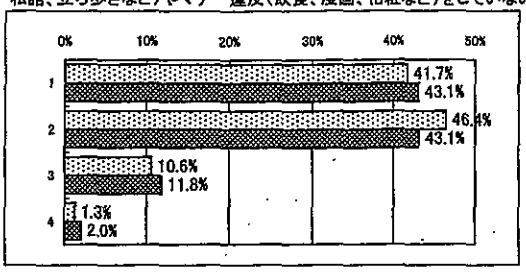
凡例: 7月 / 12月

解答: 1. そうである
2. ほぼそうである
3. あまりそうでない
4. 全くそうでない

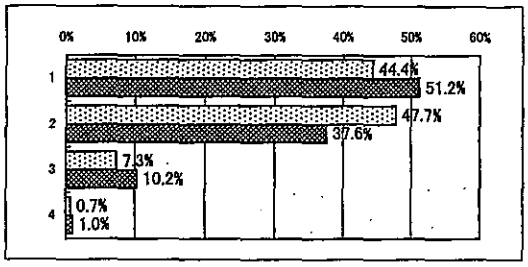
Q1 あなたは授業にきちんと参加し、指示された学習を行っている。



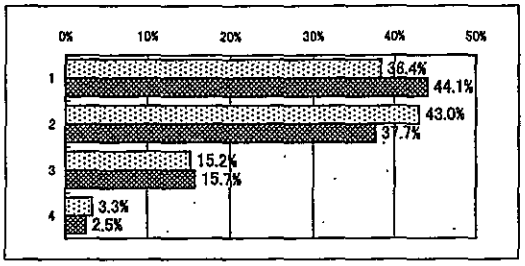
Q2 あなたは授業中に授業の妨げとなる行い(携帯電話、携帯音楽プレーヤー、私語、立ち歩きなど)やマナー違反(飲食、漫画、化粧など)をしていない。



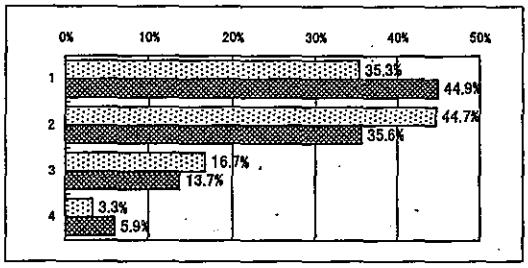
Q3 先生は授業のために十分な準備をしていると思う。



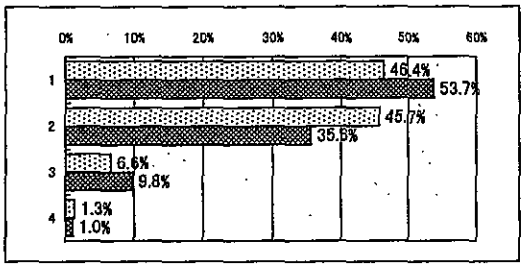
Q4 授業の進度、進め方は適切である。



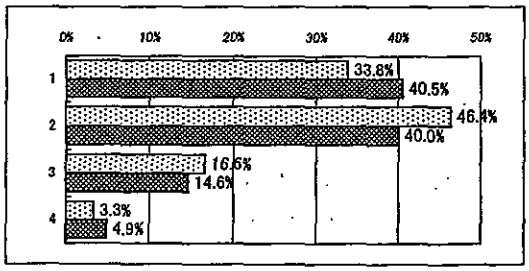
Q5 「わかる」「できる」が感じられる授業である。



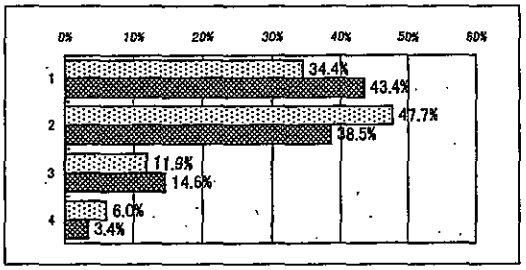
Q6 授業の中に自分で考えて学習したり活動したりする時間がある。



Q7 先生の説明や授業中の指示はわかりやすい。



Q8 先生は生徒の発言を大切にして授業に活かそうとしている。



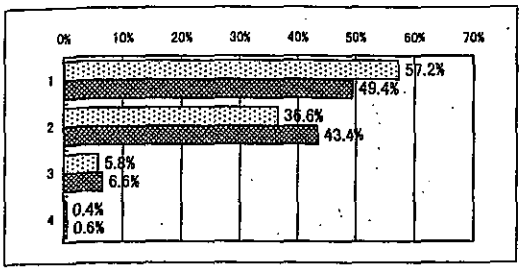
昨年度との比較・分析	○昨年度と比較し、全般的に生徒の意識が良い方向に変わってきている。授業スタイルが浸透してきたものと思われる。
前期/後期の比較・分析	○生徒も前期に比べ情報の授業スタイルになれたせいもあり、全体的に「そうである」の割合が増したと思われる。一方で、設問4および7で「あまりそうではない」と「全くそうではない」の合計が約2割あり、その結果が設問5における約2割の生徒の理解力不足という結果になっていると思われる。
その他気付いた点、課題等	<今後の課題> ○上記の生徒に対するフォローを行うためには、生徒同士の指導(教えあう力)の育成や、教員体制(1クラス3名TTが望ましい)の改善等も考えていきたい。

総合的な学習の時間(A)

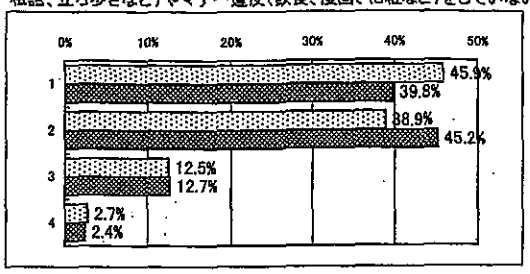
凡例: 7月 / 12月

解答: 1. そうである / 2. ほぼそうである / 3. あまりそうでない / 4. 全くそうでない

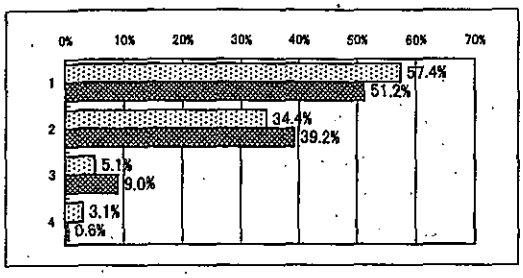
Q1 あなたは授業にきちんと参加し、指示された学習を行っている。



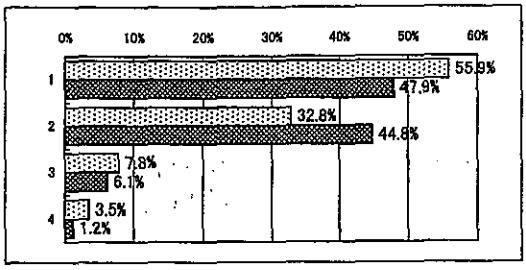
Q2 あなたは授業中に授業の妨げとなる行い(携帯電話、携帯音楽プレーヤー、私語、立ち歩きなど)やマナー違反(飲食、漫画、化粧など)をしていない。



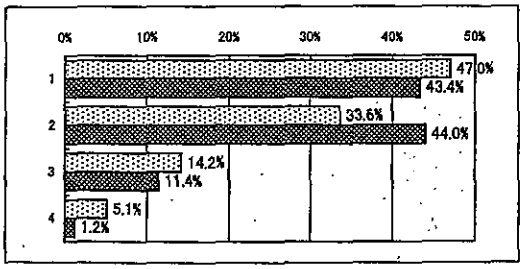
Q3 先生は授業のために十分な準備をしていると思う。



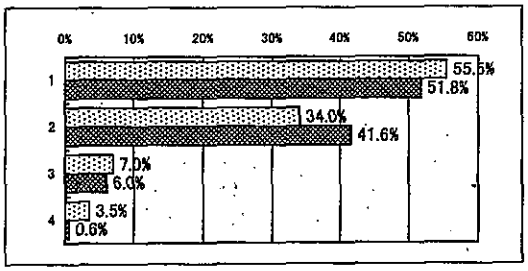
Q4 授業の進度、進め方は適切である。



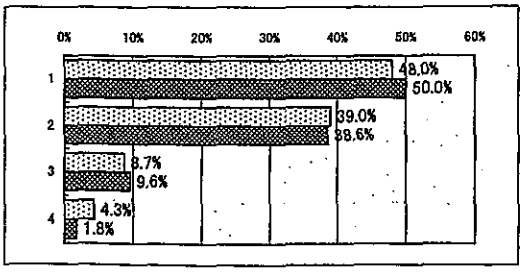
Q5 「わかる」「できる」が感じられる授業である。



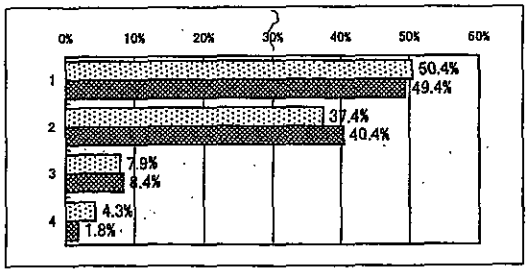
Q6 授業の中に自分で考えて学習したり活動したりする時間がある。



Q7 先生の説明や授業中の指示はわかりやすい。



Q8 先生は生徒の発言を大切にして授業に活かそうとしている。



昨年度との比較・分析	○昨年度の課題をふまえテキストを書き込み中心から、思考問題やクイズ等を加えたものにしたため、Q6、7での授業に対する肯定的な評価が大幅に増えた。 ○生徒の活発な発言や主体的参加を増やそうとする授業展開にしたため、昨年度よりQ8での否定的な評価が減少し肯定的な評価が増加した。
前期/後期の比較・分析	○肯定的な評価と否定的な評価の割合は前後期を比較してさほど差がなかった。 ○Q3で否定的な評価が微増し、Q7で否定的な評価が微減しているのは、前期は行事が集中し、主体的学習が多かったことと後期はテキスト中心の授業で課題にじっくり取り組めたためと考えられる。
その他気付いた点、課題等	<今後の課題> ○行事や課題が集中しすぎないよう配列や内容を検討する。 ○生徒の実生活に即した課題を提示できるよう、教材の研究に努めていきたい。

平成 19 年度
神奈川県立田奈高等学校
「学力向上拠点形成事業」実践研究報告書（2 年次）
（確かな学力育成のための実践研究事業）

発行日　平成 20 年 3 月 31 日
発行者　神奈川県立田奈高等学校
　　校長　　中田　正敏
編集者　神奈川県立田奈高等学校
　　研究開発グループ

神奈川県立田奈高等学校
〒227-0034　横浜市青葉区桂台 2-39-2
電話　045-962-3135
FAX　045-962-9039
http://www.tana-h.pen-kanagawa.ed.jp/